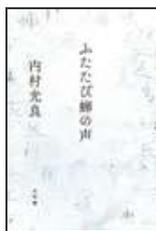


書評 201904



ふたたび蟬の声

内村 光良 著

小学館

50歳を目前に控えた役者、進。最近ようやく順調に仕事が入るようになったが、家庭内で居心地の悪さを感じるようになり…。翻弄され、迷いながらも家族や人生と向き合い、懸命に生きる人々を描いた群像小説。

2019:3./ 303p

978-4-09-386535-7

本体 ¥1,600+税



産経新聞 2019/04/06



「伝える力」と「地頭力」がいきなり高まる東大作文

西岡 尙誠 著

東洋経済新報社

偏差値 35 から東大に合格した著者が、誰でも簡単に「伝える力」と「地頭力」を高められる、東大生の双方向的な文章の作り方「東大作文」のメソッドを紹介する。メソッドを使ったシチュエーション別の文章の作り方も掲載。

2019:3./ 280p

978-4-492-04639-5

本体 ¥1,400+税



産経新聞 2019/04/06



ここから世界が始まる〜トルーマン・カポーティ初期短篇集〜

トルーマン・カポーティ、小川 高義 著

新潮社

ホームレス、老女、淋しい子どもへの共感…。社会の外縁に住まう者たちに共感を寄せ、明晰な文章に磨きをかけていったカポーティの、高校時代から 20 代初めの未発表作全 14 篇をまとめた短篇集。村上春樹による解説も収録。

2019:2./ 196p

978-4-10-501408-7

本体 ¥1,900+税



産経新聞 2019/04/07



自分流のすすめ〜気ままな私と二匹の猫たち〜

曾野 綾子 著

中央公論新社

自分で動けるうちは、好きな花を植え、野菜を育て、料理を作り、しっかり食べ、読書をし、体をちゃんと動かしながら、一日一日過ごしていきたい。老後の日常を切り取ったエッセイ。『婦人公論』連載に加筆して単行本化。

2019:3./ 155p

978-4-12-005178-4

本体 ¥1,000+税



産経新聞 2019/04/07



帰還

堂場 瞬一 著

文藝春秋

東日新聞四日市支局長の水死体が発見され、警察は事故死と判断した。新人時代に同じ支局だった同期 3 人が、真相究明に乗り出すが…。長編ミステリ。『オール讀物』連載を単行本化。

2019:4./ 365p

978-4-16-391005-5

本体 ¥1,700+税



産経新聞 2019/04/07

- ご注文の際には、タイトル・出版社名・価格のほか、ISBN も併せてお知らせください。
- 原価の改定、為替相場の変動などの理由により価格を変更する場合がございます。予めご了承の程お願い申し上げます。
- ご注文、ご照会には弊社本・支店・営業部(課)までお申し付けください。
- 表示価格は 2019 年 5 月時点での税抜価格です。



素顔の美智子さま～11人が語る知られざるエピソード～

つげ のり子、山下 晋司 著
河出書房新社

天皇陛下を支え、国民に寄り添い、平和と幸福を祈り続けた皇后美智子さま。美智子さまと交流してきた様々な分野の11人に綿密な取材を行い、愛と慈しみの象徴の実像にせまる。

2019/3./ 209p
978-4-309-02786-9
本体 ¥1,500+税



産経新聞 2019/04/07



地域金融復権のカギ「地方創生ファンド」～共感・感動のスマールビジネスを育て、日本を変える～

松本 直人 著
東洋経済新報社

人口減少時代を迎え、いま一度地方に活力を取り戻すために、地域金融機関と協力し、地場産業を支える金融を創り上げる方法を、地方創生ファンド運営の仕組みや実例を交えて解説する。金融機関のあり方についての対談も掲載。

2019/3./ 205p
978-4-492-96155-1
本体 ¥1,500+税



産経新聞 2019/04/07



防災・防犯シミュレーション<3> 身近な危険そのときどうする?

ほるぷ出版

自然災害や身近な危険について、シミュレーションしながら学ぶ本。[3]は、留守番するときや外で遊ぶとき、SNSなどで危ない目にあわないためにはどうすればよいのかを、マンガを交えて解説する。

2019/2./ 47p
978-4-593-58791-9
本体 ¥3,000+税



産経新聞 2019/04/07



私の先祖 明智光秀

細川 珠生 著
宝島社

本能寺の変は、天皇と国を護る“正義の闘い”だった-。よき家庭人であり、連歌・茶道に精通した文化人でもあった明智光秀の実像に、直系の末裔が迫る。歴史学者・本郷和人との対談も収録。

2019/2./ 189p
978-4-8002-9167-7
本体 ¥1,480+税



産経新聞 2019/04/07



台北・歴史建築探訪～日本が遺した建築遺産を歩く～

片倉 佳史 著
ウェッジ

「辰野式」で知られた最高統治機関、地震対策が施された学校建築、水運とともに盛衰した豪邸と路地…。台北市内に残る日本統治時代の建築物を、台湾在住作家が15年をかけて撮り下ろした写真とともに紹介。

2019/3./ 361p
978-4-86310-212-5
本体 ¥1,800+税



産経新聞 2019/04/07



胎児のはなし

増崎 英明、最相 葉月 著
八木書店

妊娠・出産にまつわる素朴なギモンから、科学技術がもたらした恩恵と課題、胎児医療の最前線まで。新時代の産婦人科界を牽引した産婦人科医・増崎英明に、ノンフィクションライター・最相葉月が妊娠・出産の全てを訊く。

2019/2./ 319p
978-4-909394-17-0
本体 ¥1,900+税



産経新聞 2019/04/07、日本経済新聞 2019/04/13



after 3.11 世代

榎出版社

5人の若者たちは、東日本大震災が起きた時、若手社会人、もしくは就職を控えた学生たちだった。彼ら after 3.11 世代がどのように震災を受け止め、彼らの考え方、働き方にどんな影響があったのかを追う。

産経新聞 2019/04/13

2019:3./ 139p
978-4-7779-5489-6

本体 ¥1,000+税



安楽死・尊厳死の現在～最終段階の医療と自己決定～(中公新書 2519)

松田 純 著

中央公論新社

オランダでは年間 6000 人を超え、ベルギー、スイス、米国など各国も続く合法的な安楽死。“先進”各国の実態から、尊厳死と称する日本での問題、人類の自死をめぐる思想史を繙き、「死の医療化」と言われるその実態を描く。

産経新聞 2019/04/14

2018:12./ 5p,244p
978-4-12-102519-7

本体 ¥860+税



なぜ論語は「善」なのに、儒教は「悪」なのか～日本と中韓「道徳格差」の核心～(PHP 新書 1179)

石 平 著

PHP研究所

「論語」と「儒教」とは別のものであることを立証。さらに、「論語」が有意義な「善」の書であるのに対し、朱子学と礼教を含めた「儒教」は、政治権力の正当化と人間性の抑圧を本領とする「悪の教学」であることを明かす。

産経新聞 2019/04/14

2019:3./ 254p
978-4-569-84277-6

本体 ¥900+税



「怪奇大作戦」の挑戦

白石 雅彦 著

双葉社

怪獣も宇宙人も登場しない「怪奇大作戦」はいかに誕生し、終焉を迎えたのか。実相寺昭雄や市川森一らが残した言葉や史料、証言から、名作の歴史的事実と、第一期円谷プロの終焉と復活の軌跡に迫る。

産経新聞 2019/04/14

2019:3./ 303p
978-4-575-31439-7

本体 ¥1,800+税



村岡典嗣～日本精神文化の真義を闡明せむ～(ミネルヴァ日本評伝選)

水野 雄司 著

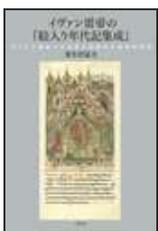
ミネルヴァ書房

大正末期から昭和前半期に「日本思想史学」を確立させた村岡典嗣。アカデミズムにおける日本思想史研究の指導的役割を果たした村岡は、何を「日本」とし、何を伝えたかったのか。その想いに迫る。

産経新聞 2019/04/14

2018:11./
18p,249p,8p
978-4-623-08476-0

本体 ¥3,500+税



イヴァン雷帝の『絵入り年代記集成』～モスクワ国家の公式の大図解年代記研究序説～

栗生沢 猛夫 著

成文社

「天地創造」からの世界史と、それに続く 16 世紀までのロシア史を極彩色細密画で描き出す「絵入り年代記集成」。これまで日の目を見なかった謎の解明を目指すと同時に、全体構成と内容、歴史史料としての意義を考察する。

産経新聞 2019/04/14

2019:1./ 326p 図版
34 枚
978-4-86520-030-0

本体 ¥6,000+税





大好きな町に用がある(SWITCH LIBRARY)

角田 光代 著

スイッチ・パブリッシング

はじめて降り立つ場所は不安だけれど-。マドリッド、香港、プノンペン、ボルドー、タオ島、バンコク、台北、シンセレホ...作家・角田光代が胸を去来する幾重もの旅の記憶を綴る。『SWITCH』連載を単行本化。

2019:2./ 157p

978-4-88418-464-3

本体 ¥1,600+税



産経新聞 2019/04/14



ヤンキーと地元〜解体屋、風俗経営者、ヤミ業者になった沖縄の若者たち〜

打越 正行 著

筑摩書房

沖縄のヤンキーたちはどのような現実を生きているのか。生きていくために建設業や性風俗業、ヤミ仕事に就いた若者たちと10年以上つき合った社会学者による調査の記録。地元社会の過酷な掟を描く。

2019:3./ 302p

978-4-480-86465-9

本体 ¥1,800+税



産経新聞 2019/04/14、朝日新聞 2019/04/27



文豪お墓まいり記

山崎 ナオコーラ 著

文藝春秋

終戦の前日、永井荷風と谷崎潤一郎がすき焼きを食べた-。互いに関わりながら生きてきた文豪たち。現代の作家・山崎ナオコーラが、お墓まいりをすることで昔の作家に会いに行く。地図も掲載。『文學界』連載を単行本化。

2019:2./ 233p

978-4-16-390970-7

本体 ¥1,550+税



産経新聞 2019/04/14、日本経済新聞 2019/04/20



春風亭一之輔 師いわく

春風亭 一之輔、キッチンミノル 著

小学館

不惑を迎えた落語家・春風亭一之輔が、写真家・キッチンミノルを聞き手に、迷える読者のお悩みにゆる〜く答える人生放談。小学館のウェブマガジン『BOOK PEOPLE』連載を書籍化。

2019:3./ 287p

978-4-09-388674-1

本体 ¥1,500+税



産経新聞 2019/04/21



あなたがひとりで生きていく時に知っておいてほしいこと〜ひとり暮らしの智恵と技術〜

辰巳 渚 著

文藝春秋

まずは、ごはんを2合炊くことから始めよう-。生涯に渡り「自立」の大切さを訴え、2018年6月に不慮の事故で急逝した著者が、最後に遺した「ひとり暮らし」のバイブル。自立して生きるために必要な知識や技術が身につく。

2019:1./ 229p

978-4-16-390958-5

本体 ¥1,350+税



産経新聞 2019/04/21



おにぎりにはிரりたいやつよっといで

岡田 よしたか 著

佼成出版社

お皿の上にはいたおにぎりたちは具になってくれる食材を求め、旅に出ることにしました。まずは海に行ってみましたが、具は見つかりません。町の商店街に行くと、サケの切り身と梅干しが遊んでいて...

2019:2./ 32p

978-4-333-02798-9

本体 ¥1,300+税



産経新聞 2019/04/21



この先には、何がある?

群 ようこ 著
幻冬舎

昭和、平成、バブル、21 世紀。好景気も出版不況も、どんな時代も、かわることなく、いつも「普通の人」を書いてきた。書き続けた 40 年を振り返る、自伝的エッセイ。『小説幻冬』連載を書籍化。

2019:2./ 205p
978-4-344-03420-4
本体 ¥1,300+税



産経新聞 2019/04/21



ロシア構成主義～生活と造形の組織学～

河村 彩 著
共和国/editorial republica

ロシア革命直後、新しい社会主義文化建設のために生まれた<ロシア構成主義>はなぜ、21 世紀も模倣され、あらゆるモードの祖型となったのか。「住まう」「暮らす」「見せる」等をキーワードにその実像を描き出す。

2019:2./ 301p
978-4-907986-43-8
本体 ¥3,200+税



産経新聞 2019/04/21



安吾人生案内

坂口 安吾 著
三田産業

買った娼婦が男だと分かり、逆上して殺した少年。人形を我が子のように愛し、一緒に生活する婦人。夫が記憶喪失になり、自らの存在も忘れられた妻…。迷える者たちの人生に、坂口安吾が対峙する。

2019:2./ 239p
978-4-9910066-1-6
本体 ¥1,500+税



産経新聞 2019/04/21



崩壊の森

本城 雅人 著
文藝春秋

ソ連崩壊前夜、東洋新聞記者の土井垣は「特ダネ禁止」のなか、果敢に取材していく。だが、ソ連政府は一記者にまで監視の目を光らせていて…。元新聞記者だから書けたサスペンス長編小説。『別冊文藝春秋』連載を単行本化。

2019:3./ 349p
978-4-16-390995-0
本体 ¥1,750+税



産経新聞 2019/04/21、毎日新聞 2019/04/21



日本共産党の正体(新潮新書 803)

福富 健一 著
新潮社

党员 30 万人、国と地方約 2800 人の議員を擁する日本共産党。史的唯物論などの独自理論から組織、歴代書記長、資金、綱領まで、共産主義と日本共産党を知るうえで必要な基礎知識を解説。その危険性と問題点を露わにする。

2019:2./ 255p
978-4-10-610803-7
本体 ¥800+税



産経新聞 2019/04/28



機捜 235

今野 敏 著
光文社

渋谷署に分駐所を置く警視庁第二機動捜査隊に、高丸の新しい相棒が着任した。それは白髪頭の定年間際の男・縞長だった。縞長は苦労を重ね、思いがけない実力を秘めた刑事で…。『宝石ザミステリー』等掲載を単行本化。

2019:3./ 277p
978-4-334-91270-3
本体 ¥1,500+税



産経新聞 2019/04/28



文化財建造物の保存修理を考える～木造建築の理念とあり方～

文化財建造物保存技術協会 著
山川出版社

木造建築は適切な修理が継承されることで、今日まで保存されてきた。国内外の建造物保存修理の歴史や事例、理念、あり方について、技術者・行政担当者・研究者が会して検証した、2014?16年の3回のシンポジウムの記録。

2019:4./ 6p,231p,45p
978-4-634-52026-4

本体 ¥5,000+税



産経新聞 2019/04/28



ニッポンのはたらく人たち

杉山 雅彦 著
パイインターナショナル

「働く」が一番、面白い! 林業、製造業、そば屋、放送局...。静岡出身・在住の写真家が、さまざまな会社の全ての部署と仕事の瞬間を、合成なしの一発撮りで写した劇場型集合写真集。会社のコメント・情報も掲載。

2019:3./ 79p

978-4-7562-5178-7

本体 ¥1,900+税



産経新聞 2019/04/28



遠藤周作と探偵小説～痕跡と追跡の文学～(南山大学学術叢書)

金 承哲 著
教文館

カトリック作家・遠藤周作はなぜ「探偵小説に頼る」ことを目指したのか。彼の芸術体験に注目し、その作品世界を探偵小説と関連づけて考察する。神を追う人間と神に追われる人間を語る遠藤文学を、新しい視点で俯瞰する一冊。

2019:3./ 359p,4p

978-4-7642-7433-4

本体 ¥3,200+税



産経新聞 2019/04/28



古書古書話

荻原 魚雷 著
本の雑誌社

一冊の本は無数の本につながっている。人が歩いた後に道ができるように読書の後にも道ができる。古本処世の達人がつづる、獲れ獲れピチピチの古本ネタ。『小説すばる』『本の雑誌』連載を単行本化。

2019:3./ 462p

978-4-86011-427-5

本体 ¥2,200+税



産経新聞 2019/04/28



新東宝 1947-1961～創造と冒険の15年間～

ダーティ工藤 編
国際放映株式会社 著
ワイズ出版

文芸映画、巨匠監督作から、キッチュでカルトな作品まで、あらゆるジャンルで魅力あふれる作品を作り続けた新東宝。その15年間の全作品解説&スチール付きのフィルムモグラフィ、俳優&スタッフインタビューを集成する。

2019:3./ 383p

978-4-89830-327-6

本体 ¥3,700+税



産経新聞 2019/04/28



創造された「故郷」～ケーニヒスベルクからカーニングラードへ～

ユーリー・コスチャシーフ、橋本 伸也、立石 洋子 著
岩波書店

第2次世界大戦の結果、東プロイセンのドイツ人は追放され、ソ連各地から来た移住者が新しい都市を建設することになった。戦争で住民が総入れ替えになった地域の稀有な歴史を、政策者と住民のダイナミズムを通して描く。

2019:2./

12p,259p,18p

978-4-00-023738-3

本体 ¥3,600+税



朝日新聞 2019/04/06



韓めし政治学(角川新書 K-253)

黒田 勝弘 著
KADOKAWA

「めし食ったか?」が韓国の日常のあいさつ。金正恩はなぜ冷?を持ち込んだのか。韓国人はなぜイヌを食わなくなったのか。食と切り離せない朝鮮半島の政治を、在韓 40 年の日本人記者が読みとく。

2019:3./ 301p
978-4-04-082273-0
本体 ¥860+税



朝日新聞 2019/04/06



0から1をつくる～地元で見つけた、世界での勝ち方～(講談社現代新書 2509)

本橋 麻里 著
講談社

銅メダルを獲得した平昌五輪、海と空と畑しかない故郷、ロコ・ソラーレと歩んできた 8 年…。カーリング女子を率いた本橋麻里が、コミュニケーション術、組織マネジメント術、リーダー論を明らかにする。

2019:1./ 188p 図版
16p
978-4-06-514414-5
本体 ¥880+税



朝日新聞 2019/04/06



捕まえたもん勝ち!<1> 七夕菊乃の捜査報告書(講談社文庫 か 145-1)

加藤 元浩 著
講談社

捜査一課の刑事に抜擢された元アイドルの菊乃は、天才心理学者・蓮蔵と、報告書の書き方に異様な執念を燃やす鬼才・安公が繰り広げる頭脳戦に巻き込まれる。初めて挑む密室殺人事件の捜査、一体どうなってしまうのか…。

2019:2./ 459p
978-4-06-514767-2
本体 ¥860+税



朝日新聞 2019/04/06



スカイフォール ～消し尽くせぬ夏の光～(ビッグ コミックス)

三門 ジャクソン 著
小学館

戦時中の広島へ高校生がタイムスリップ!原爆が投下される直前の広島に、時空を超えて飛んだ現代の高校生。原爆被災地となった広島で オーバーラップしてくる 3.11 の記憶…

2019:3./ 224p
978-4-09-860218-6
本体 ¥591+税



朝日新聞 2019/04/06



にぎりえ・たけくらべ 改版(新潮文庫)

樋口 一葉 著
新潮社

落ちぶれた愛人の源七とも自由に逢えず、自暴自棄の日を送る銘酒屋のお力を通して、社会の底辺で悶える女を描いた『にぎりえ』。他、明治文壇を彩る天才女流作家一葉の、人生への哀歓と美しい夢を織り込んだ短編全 8 編を収録。

2003:1./ 287p
978-4-10-101601-6
本体 ¥370+税



朝日新聞 2019/04/06



寝ぼけ署長 第2版(新潮文庫 や-3-13)

山本 周五郎 著
新潮社

在任中、署でも官舎でもぐうぐう寝てばかり。罪を憎んで人を憎まず、“寝ぼけ署長”こと五道三省が「中央銀行三十万円紛失事件」や「海南氏恐喝事件」など、10 件の難事件を、鋭い推理と奇抜な発想で次々解決する。

2019:4./ 427p
978-4-10-113487-1
本体 ¥630+税



朝日新聞 2019/04/06



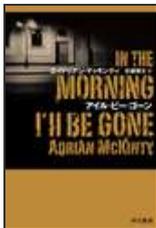
観光亡国論(中公新書ラクレ 650)

アレックス・カー、清野 由美 著
中央公論新社

増加する訪日外国人観光客。京都をはじめ観光地にはキャパシティを超える人が殺到し、交通や景観、住環境などでトラブルが続発している。真の観光立国を果たすべく建設的な解決策を、世界の事例を盛り込みながら検討する。

朝日新聞 2019/04/06

2019:3./ 220p
978-4-12-150650-4
本体 ¥820+税



アイル・ビー・ゴーン(ハヤカワ・ミステリ文庫 HM 462-3)

エイドリアン・マッキンティ、武藤 陽生 著
早川書房

IRA の大物テロリストで旧友のダーモットの捜索依頼を引受けた元刑事のショーンは、ダーモットの元妻の母に取引を迫られる。4 年前の娘の死の謎を解けば、居場所を教えるというのだ。だがその現場は完全な“密室”で…。

朝日新聞 2019/04/06

2019:3./ 510p
978-4-15-183303-8
本体 ¥1,180+税



平成の通信簿～106 のデータでみる 30 年～(文春新書 1201)

吉野 太喜 著
文藝春秋

平成元年。消費税が施行され、衛星放送が始まり、日経平均株価は史上最高値をつけた。それから 30 年、日本はどれくらい変わったのか? 家計、医療費、海外旅行、体格など様々なアングルから明らかにする。

朝日新聞 2019/04/06

2019:3./ 229p
978-4-16-661201-7
本体 ¥980+税



この女(文春文庫 も 20-6)

森 絵都 著
文藝春秋

釜ヶ崎のドヤ街に暮らす僕に、奇妙な依頼が舞いこんだ。金持ちの奥さんの話を小説に書けば、300 万円もらえるというのだ。ところが彼女は勝手気儘で、身の上話もデータメばかり。彼女はなぜ、過去を語らないのか…。

朝日新聞 2019/04/06

2014:6./ 330p
978-4-16-790114-1
本体 ¥610+税



ラファエッロの秘密

コスタンティーノ・ドラッツィオ、上野 真弓 著
河出書房新社

素晴らしい創造力の源であるだけでなく、工房の管理経営においても、他の誰にもなし得なかった手腕をみせたラファエッロ。成功に成功を重ね、貴族のように富を蓄え、性愛に生きた若き巨匠の生涯を、生き生きと物語る。

朝日新聞 2019/04/06

2019:1./ 251p 図版
16p
978-4-309-25616-0
本体 ¥2,800+税



<雅楽>の誕生～田辺尚雄が見た大東亜の響き～

鈴木 聖子 著
春秋社

西洋の音響学や進化論などの科学的知見にもとづき、日本の音楽を研究した音楽学者・田辺尚雄。「日本音階」の探究から出発し、<雅楽>を核とする「日本音楽史」を編み上げ、「東洋音楽発達史」を作り上げたプロセスを追う。

朝日新聞 2019/04/06

2019:1./ 9p,350p,4p
978-4-393-93035-9
本体 ¥3,500+税





あの日からの或る日の絵とことば〜3.11 と子どもの本の作家たち〜

筒井 大介 編
創元社

「あの日から」を生きる、すべての人へ。高山なおみ、中川学、穂村弘、ヨシタケシンスケら、現代を代表する 32 人の絵本作家たちが、震災をめぐる「或る日の記憶」を描いた絵とエッセイを収録する。

2019/3./ 141p
978-4-422-70120-2
本体 ¥1,700+税

朝日新聞 2019/04/06



父が娘に語る美しく、深く、壮大で、とんでもなくわかりやすい経済の話。

ヤニス・バルファキス、関 美和 著
ダイヤモンド社

元ギリシャ財務大臣の父が 10 代半ばの娘に向けて、シンプルかつ心に響く言葉で経済について語った本。格差、市場社会の誕生、金融の役割や資本主義の歴史と功罪を、小説や SF 映画などの例を挙げながら平易な言葉で説く。

2019/3./ 246p
978-4-478-10551-1
本体 ¥1,500+税

朝日新聞 2019/04/06



激しく考え、やさしく語る〜私の履歴書〜(日経プレミアシリーズ 399)

山折 哲雄 著
日本経済新聞出版社

生き恥をさらすか、晩節を汚すか-覚悟があれば人は孤独に襲われない。日本を代表する宗教学者が、独自の思想を育んだ 87 年を生きた感懐を綴る。『日本経済新聞』連載の「私の履歴書」にロングインタビューを加えて書籍化。

2019/3./ 261p
978-4-532-26399-7
本体 ¥890+税

朝日新聞 2019/04/06



会計の世界史〜イタリア、イギリス、アメリカ-500年の物語〜

田中 靖浩 著
日本経済新聞出版社

帳簿と会社の誕生から、計算や報告の仕組みの変化、管理会計やファイナンスといった新分野の登場まで、会計の世界史を物語として綴る。簿記、会計、ファイナンスの全体がわかる一冊。

2018/9./ 423p
978-4-532-32203-8
本体 ¥2,200+税

朝日新聞 2019/04/06



知っておきたい入管法〜増える外国人と共生できるか〜(平凡社新書 906)

浅川 晃広 著
平凡社

世界第 4 位の移民大国・日本は入管法改正でどう変わるのか。コンビニで外国人店員が多い理由、外国人観光客が増えた理由、偽装難民・急増のカラクリなど、外国人にまつわる素朴な疑問に法制度的観点から答える。

2019/3./ 239p
978-4-582-85906-5
本体 ¥860+税

朝日新聞 2019/04/06



明日につづくリズム(ポプラ文庫ピュアフル P や-2-1)

八束 澄子 著
ポプラ社

朝日新聞 2019/04/06

2011/11./ 227p
978-4-591-12661-5
本体 ¥560+税



食べたくなる本

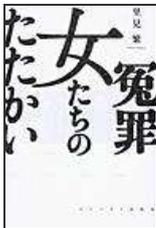
三浦 哲哉 著
みすず書房

美味しい料理、美味しい酒には目がない気鋭の映画批評家が、料理本や料理エッセイを批評的に読む。食の素材、味、調理法、さらには食文化のあり方をめぐる、驚きと発見に満ちた考察。『みすず』連載を加筆し書籍化。

2019.2./ 324p
978-4-622-08781-6
本体 ¥2,700+税



朝日新聞 2019/04/06



冤罪 女たちのたたかい

里見 繁 著
インパクト出版会

自らが事件の犯人とされ、その冤罪を晴らすために闘った女性。逮捕された男性の冤罪を晴らすために一緒に闘った女性。偏見と差別とたたかい、雪冤を果たした4人の女性の活動や言葉を紹介する。

2019.2./ 348p
978-4-7554-0292-0
本体 ¥2,500+税



朝日新聞 2019/04/06



アメリカの恩寵～宗教は社会をいかに分かち、結びつけるのか～

ロバート・D.パットナム、デヴィッド・E.キャンベル、柴内 康文 著
柏書房

宗教的な分極化が進むアメリカで、宗教的な多様性が維持されているのはなぜか。アメリカの共通の世界観や社会的ネットワークを束ねる存在である「宗教」の機能と影響、長期にわたる変化について、膨大な調査データを基に描く。

2019.2./ 673p
978-4-7601-5075-5
本体 ¥7,800+税



朝日新聞 2019/04/06



変容するNHK～「村度」とモラル崩壊の現場～

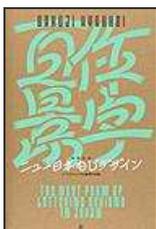
川本 裕司 著
花伝社

NHK は、あるべき公共放送に向かっていくのか？ 不可解な会長人事、相次ぐ職員不祥事、「クロ現」人気キャスターの降板…。政権に翻弄される NHK を追いつけた現役記者が「巨大放送局」の実像に迫る。

2019.2./ 241p
978-4-7634-0877-8
本体 ¥1,500+税



朝日新聞 2019/04/06



作字百景～ニュー日本もじデザイン～

グラフィック社編集部 編
グラフィック社

2010年代以降、インディペンデントシーンを中心に興隆してきた「かき文字」によるデザインの動向をまとめた本。規格化された文字、つまりフォントを使わない、文字中心のグラフィックデザインの数々を取りあげる。

2019.2./ 271p
978-4-7661-3271-7
本体 ¥2,800+税



朝日新聞 2019/04/06



未来のコミュン～家、家族、共存のかたち～

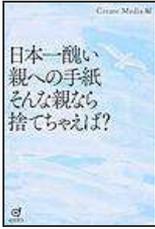
中谷 礼仁 著
インスクリプト

幻想の家族から新たな共同性へ。“家=人間と社会を調停する器”はいかに可能か。歴史を貫く共存の条件を探り、時空間を踏破して掴まれた経験知からその先のヴィジョンへと至る渾身の思考。

2019.1./ 315p
978-4-900997-73-8
本体 ¥3,200+税



朝日新聞 2019/04/06



日本一醜い親への手紙 そんな親なら捨てちゃえば?

Create Media 編
dZERO

「東大出のクズ」「死んでも許さない」「あんたたちとは違う」…。親からの虐待を生き延びたサバイバーたちが書いた訣別と希望と勇気の手紙 100 通を収録する。東小雪、信田さよ子による解説も掲載。

2017:10./ 260p
978-4-907623-24-1
本体 ¥1,800+税



朝日新聞 2019/04/06



くわしすぎる教育勅語

高橋 陽一 著
太郎次郎社エディタス

教育勅語本文の一字一句にこだわって解説。明治のエリートたちが書き上げた 315 字の文言はどこからやってきて、何を目指したのかを考察し、巧みなレトリックと埋め込まれたフェイクを味わう。教育勅語関連年表付き。

2019:2./ 269p
978-4-8118-0832-1
本体 ¥2,000+税



朝日新聞 2019/04/06、読売新聞 2019/04/14



ビジュアル物理全史～ビッグバンから量子的復活まで～

クリフォード・ピックオーバー、吉田 三知世 著
岩波書店

人類が月の裏側を初めて見たのはいつ? 古代のバグダッド電池の謎とは? 理論的なテーマや実際のテーマから、奇妙で摩訶不思議な話題まで、物理と人間の織りなす壮大な物語を、美しい写真と図版で語る。

2019:3./ 11p,257p
978-4-00-006334-0
本体 ¥4,200+税



朝日新聞 2019/04/13



20 世紀ラテンアメリカ短篇選(岩波文庫 32-793-1)

野谷 文昭 著
岩波書店

20 世紀後半に世界的ブームを巻き起こした中南米文学の傑作短編を集成。ガルシア=マルケス「フォルベス先生の幸福な夏」、バルガス=リョサ「決闘」、パス「青い花束」、アジェンデ「ワリマイ」など全 16 篇を収録する。

2019:3./ 393p
978-4-00-327931-1
本体 ¥1,020+税



朝日新聞 2019/04/13



「砂漠の狐」ロンメル～ヒトラーの将軍の栄光と悲惨～(角川新書 K-254)

大木 毅 著
KADOKAWA

ドイツ国防軍で最も有名な将軍・ロンメル。最後はヒトラー暗殺の陰謀に加担したとされ、非業の死を遂げる。彼はヒトラーの忠実なる“軍人”なのか、誠実なる“反逆者”なのか。最新学説を盛り込み、その虚像と実像を暴く。

2019:3./ 312p
978-4-04-082255-6
本体 ¥900+税



朝日新聞 2019/04/13



ブラックジャックによろしく<13> 精神科編(モーニング KC 5)

佐藤 秀峰 著
講談社

朝日新聞 2019/04/13

2006:1./ 200p
978-4-06-372488-2
本体 ¥533+税





きりひと讃歌<1>(手塚治虫文庫全集)

手塚 治虫 著
講談社

奇病「モンモウ病」の本当の原因とは!?奇病「モンモウ病」の原因究明のため、小山内桐人は犬神沢へとわけ入った。そこで彼が見たものは?現代社会の病巣をすどくえぐる、衝撃のヒューマン・ドラマ!

2010:2./ 403p
978-4-06-373743-1
本体 ¥850+税



朝日新聞 2019/04/13



きりひと讃歌<2>(手塚治虫文庫全集)

手塚 治虫 著
講談社

医学会の権力闘争と人間の尊厳を描く!!竜ヶ浦教授の裏切りを知り急ぎ帰国した桐人は、いまや日本医師会会長の座を手に入れた竜ヶ浦に復讐を誓うが...!?感動のヒューマン・ドラマ、堂々の完結編!

2010:2./ 434p
978-4-06-373744-8
本体 ¥880+税



朝日新聞 2019/04/13



絵とはなにか

ジュリアン・ベル、長谷川 宏 著
中央公論新社

近代美術において再現という考えになにが起こったのか。絵の性質の変化はどんな要因によって引き起こされたか。印象派から現代アートまで、価値観が大きくゆらいだ200年を実作者の立場から問い直す。カラー図版も多数収載。

2019:2./ 285p
978-4-12-005167-8
本体 ¥4,200+税



朝日新聞 2019/04/13



灰と日本人(中公文庫 こ30-5)

小泉 武夫 著
中央公論新社

発火、消毒、肥料、発酵、染料、陶芸、料理...。日本人の生活を支えてきた灰。食生活、社会、風俗、宗教、芸術に分け入り、身近な生活必需品=灰の科学と神秘性を解き明かす。

2019:3./ 245p
978-4-12-206708-0
本体 ¥880+税



朝日新聞 2019/04/13



居るのはつらいよ~ケアとセラピーについての覚書~(シリーズケアをひらく)

東畑 開人 著
医学書院

京大出の心理学ハカセが飛び込んだのは、あらゆる価値が反転する「ふしぎの国」だった。精神科デイケアを舞台に、ケアとセラピーについて綴る。『精神看護』連載を単行本化。テキストデータ引換券付き。

2019:2./ 347p
978-4-260-03885-0
本体 ¥2,000+税



朝日新聞 2019/04/13



へろへろ~雑誌『ヨレヨレ』と「宅老所よりあい」の人々~(ちくま文庫 か77-1)

鹿子 裕文 著
筑摩書房

お金も権力もない老人介護施設「よりあい」の人々が、森のような場所に出会い、土地を手に入れ、必死でお金を集めながら特別養護老人ホームづくりに挑む! 自分たちの居場所を自分たちの手でつくろうとした人々の実話。

2019:3./ 297p
978-4-480-43583-5
本体 ¥800+税



朝日新聞 2019/04/13



動物園から未来を変える〜ニューヨーク・ブロンクス動物園の展示デザイン〜

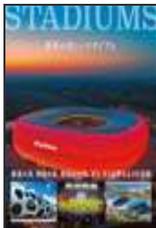
川端 裕人、本田 公夫 著
亜紀書房

世界を驚かせた革新的な展示の数々はどのように作られているのか。NY のブロンクス動物園の展示グラフィックス部門を牽引する日本人デザイナー・本田公夫の仕事に、作家・川端裕人が迫る。川端裕人のメールマガジンを書籍化。

2019:2./ 278p
978-4-7505-1567-0
本体 ¥2,000+税



朝日新聞 2019/04/13



世界の美しいスタジアム

バイインターナショナル 著
バイインターナショナル

国旗と同じ色づかいのワルシャワ国立競技場(ポーランド)、巨大宇宙生物のようなポリソフ・アレナ(ベラルーシ)、「鳥の巣」の愛称で呼ばれる北京国家体育場(中国)...。世界の美しいスタジアムを写真で紹介する。

2019:3./ 207p
978-4-7562-5179-4
本体 ¥1,850+税



朝日新聞 2019/04/13



鋼の錬金術師<27>(ガンガンコミックス)

荒川 弘 著
スクウェア・エニックス
朝日新聞 2019/04/13

2010:11./ 210p
978-4-7575-3054-6
本体 ¥429+税



クイック・ジャパン<vol.142> 特集水溜りポンド

太田出版
朝日新聞 2019/04/13

2019:2./ 199p
978-4-7783-1658-7
本体 ¥1,000+税



不思議の国のアリス 鏡の国のアリス〜新訳〜

ルイス・キャロル、高山 宏、建石 修志 著
青土社

全編に溢れ出る夢とファンタジーで、熱烈な読者を獲得する「不思議の国のアリス」「鏡の国のアリス」。21 世紀のアリスを求め、新訳テキストと描き下ろし絵画でアリス世界を極める夢のコラボレーション。

2019:3./ 251p
978-4-7917-7150-9
本体 ¥3,600+税



朝日新聞 2019/04/13



笑いの方法〜あるいはニコライ・ゴーゴリ〜 増補新装版

後藤 明生 著
つかだま書房

「われわれは皆ゴーゴリの「外套」から出て来た」というドストエフスキーの名文句の真意とは? ゴーゴリ作品の真髄である「笑い」に迫った名著。著者自ら翻訳したゴーゴリの「鼻」、恩師・横田瑞穂と共訳した「外套」も収録。

2019:2./ 327p
978-4-908624-06-3
本体 ¥3,700+税



朝日新聞 2019/04/13



思わず考えちゃう

ヨシタケ シンスケ 著
新潮社

「いわゆる男女の仲って何?」「他人のストローの袋が気になる」「孤独感を、どう解消するか」...。ついつい考えすぎちゃう絵本作家が、まじめな事から世にも下らぬ事までスケッチと共に書きとめる。

2019:3./ 143p
978-4-10-352451-9
本体 ¥1,000+税



朝日新聞 2019/04/13、読売新聞 2019/04/21



文化大革命五十年

楊 繼繩、辻 康吾 編
楊 繼繩、現代中国資料研究会 著
岩波書店

文化大革命の勝利者は実権派であり、敗北者は毛沢東を崇拜する造反派であった。流血は文革終了後も続き、犠牲者数は公表された数百倍にもものぼる。文革を通じて現代中国の真実に迫る。

2019:1./
27p,236p,48p
978-4-00-061307-1
本体 ¥2,900+税



朝日新聞 2019/04/13、日本経済新聞 2019/04/13、読売新聞 2019/04/21



山海記

佐伯 一麦 著
講談社

東北の震災後、水辺の災害の歴史と記憶を辿る旅を続ける彼は、その締めくりに震災と同じ年に土砂災害に襲われた紀伊半島に向かう...。現代日本における私小説の名手による長編小説。『群像』連載を単行本化。

2019:3./ 262p
978-4-06-514994-2
本体 ¥2,000+税



朝日新聞 2019/04/13、毎日新聞 2019/04/14、読売新聞 2019/04/21



トリニティ

窪 美澄 著
新潮社

50年前、出版社で出会った3人の女たちが半生をかけ、何を代償にしても手に入れようとした<トリニティ=かけがえのない3つのもの>とは? 昭和・平成から未来へと? ぐ希望を描く。『小説新潮』連載を単行本化。

2019:3./ 461p
978-4-10-325925-1
本体 ¥1,700+税



朝日新聞 2019/04/14



名もなき星の哀歌

結城 真一郎 著
新潮社

裏稼業として人の記憶を取引する「店」で働く良平と健太は、シンガーソングライター・星名の素性を追うことに。彼女の過去を暴く過程で医者一家焼死事件との関わりと、星名のために命を絶った男の存在を知り...。青春ミステリ。

2019:1./ 407p
978-4-10-352231-7
本体 ¥1,600+税



朝日新聞 2019/04/14



続審問(岩波文庫 赤 792-3)

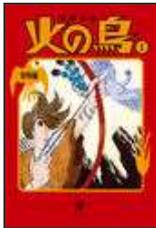
J.L.ボルヘス 著
岩波書店

巨匠ボルヘスのエッセイの代表作。時間的にも空間的にも遠く離れた作家や文学作品を途方もない博識と思っても及ばぬ驚異的な連想力で結びつけ、作家をつうじて現れた文学表現の総体もしくは伝統を論じる、巨匠だけがなす批評の冒険。

2009:7./ 406p
978-4-00-327923-6
本体 ¥960+税



朝日新聞 2019/04/20



火の鳥<1> 黎明編(角川文庫 て7-2)

手塚 治虫 著
KADOKAWA

永遠の命とは何か? 古代から超未来まで、あらゆる時空を飛翔して、生命の素晴らしさを高らかに謳う手塚治虫の傑作が復活。1 は、黎明編、今日マチ子によるトリビュート・コミック、解題を収録。

2018/6./ 363p
978-4-04-106630-0

本体 ¥880+税



朝日新聞 2019/04/20



葵の月(角川文庫 時-か 83-1)

梶 よう子 著
KADOKAWA

西丸書院番士の坂木蒼馬が、徳川家治の嗣子である家基の死を切っ掛けに突如出奔。許嫁だった志津乃は、蒼馬の友人だった男から、彼が家基の暗殺を疑われていると聞く。真相を知るため、志津乃は蒼馬を捜す決意をし...

2019/3./ 365p

978-4-04-107782-5

本体 ¥720+税



朝日新聞 2019/04/20



毒よりもなお

森 晶麿 著
KADOKAWA

自殺サイト<首絞めヒロの芝居小屋>に犯罪の匂いを感じた千尋は、その管理者が 8 年前に知り合った「ヒロアキ」ではないかと疑いを抱く。徐々に明らかになるヒロアキの哀しい過去。彼はなぜ猟奇的な犯行を繰り返したのか...

2019/3./ 309p

978-4-04-107962-1

本体 ¥1,600+税



朝日新聞 2019/04/20



事故の哲学~ソーシャル・アクシデントと技術倫理~(講談社選書メチエ 695)

齊藤 了文 著
講談社

自動運転車の事故の責任は、誰にある? 極度に複雑化した人工物の事故原因は特定不能となる。人工物のネットワークが社会を覆うとき、技術倫理はどうあるべきか。現在進行中の問題に深く切り込む。

2019/3./ 237p

978-4-06-514524-1

本体 ¥1,650+税



朝日新聞 2019/04/20



現代に生きるファシズム(小学館新書 345)

佐藤 優、片山 杜秀 著
小学館

資本主義が崩壊し格差の広がった現代。各国指導者は再びファシズムに手を染めようとしている。2 人の“知の巨人”が、未完に終わった日本型ファシズムを中心に、20 世紀最強の“劇薬”について語る。

2019/4./ 285p

978-4-09-825345-6

本体 ¥840+税



朝日新聞 2019/04/20



アーティストは花を踏まない(ビッグ コミックス[スペシャル])

小日向 まるこ 著
小学館

ここは第二次大戦前のフランス。ドイツとの国境に近い町。いつも明るい少年モモが、あきらめと悲しみにまみれた人々を少しずつ変えてゆく。しかしモモには、ある秘密があつて...

2019/4./ 214p

978-4-09-860269-8

本体 ¥770+税



朝日新聞 2019/04/20



わたし、定時で帰ります。(新潮文庫 あ-96-1)

朱野 帰子 著
新潮社

絶対に残業しないと心に決めている結衣。彼女にはどうしても残業したくない理由があった。そんな彼女の前に、無茶な仕事を振って部下を潰すというブラック上司が現れて…。新時代を告げるお仕事小説。

朝日新聞 2019/04/20

2019:2./ 360p
978-4-10-100461-7
本体 ¥590+税

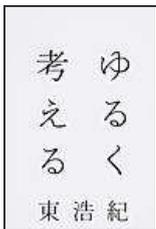


第四間氷期 改版(新潮文庫)

安部 公房 著
新潮社

朝日新聞 2019/04/20

2005:1./ 349p
978-4-10-112105-5
本体 ¥590+税



ゆるく考える

東 浩紀 著
河出書房新社

世の中を少しでもよい方向に変えるために、ゆるく、ラジカルにゆるく。東浩紀の「平成 20 年代」のエッセイを集成。『日本経済新聞』の夕刊に毎週寄せていた文章や、『文学界』連載「なんとなく、考える」等を収録する。

朝日新聞 2019/04/20

2019:2./ 333p
978-4-309-02744-9
本体 ¥1,800+税



仕事選びのアートとサイエンス～不確実な時代の天職探し～(光文社新書 996)

山口 周 著
光文社

仕事選びを予定調和させることはできない。自分をオープンに保ち、いろんなことを試し、じっくりくるものに落ち着くしかない。様々なキャリア研究や自然科学等の知見を用いて、幸福になるための仕事選びについて考察する。

朝日新聞 2019/04/20

2019:3./ 244p
978-4-334-04403-9
本体 ¥780+税



落陽(祥伝社文庫 あ 39-1)

朝井 まかて 著
祥伝社

明治天皇崩御後、東京から巻き起こった神宮造営の巨大なうねり。帝国大学農科大学講師の本郷高德は「風土の適さぬ地に、神宮林にふさわしい森厳崇高な森を造るのは不可能」と反論するが…。明治神宮創建を描いた作品。

朝日新聞 2019/04/20

2019:4./ 374p
978-4-396-34515-0
本体 ¥720+税



直感と論理をつなぐ思考法～VISION DRIVEN～

佐宗 邦威 著
ダイヤモンド社

「途方もない妄想」からスタートして、ヒト・モノ・カネを動かすには？ 目に見えない「停滞感」を打ち破る新技法「ビジョン思考」を、具体的なメソッドとともに紹介する。

朝日新聞 2019/04/20

2019:3./ 271p
978-4-478-10285-5
本体 ¥1,600+税





大転換～市場社会の形成と崩壊～ 新訳版

カール・ポラニー 著
東洋経済新報社

市場は社会に何をしたのか?ヨーロッパ文明の工業化以前の世界から工業化の時代への移行期における、自己調整的市場のユートピア性と破壊性を文明史的に解き明かした、政治経済学の古典的名著の新訳。

2009:6./
58p,549p,23p
978-4-492-37107-7
本体 ¥4,800+税



朝日新聞 2019/04/20



アラブ音楽(文庫クセジュ 1026)

シモン・ジャルジー 著
白水社

聴く者を魅了するその旋律はどう伝えられてきたのか。アラブ民族が中東・北アフリカを舞台に育んできた音文化のなかでも、音楽に焦点をしぼり、通史、特徴、近代的展開、楽器などさまざまな側面についてわかりやすく解説する。

2019:3./ 169p,11p
978-4-560-51026-1
本体 ¥1,200+税



朝日新聞 2019/04/20



パリ歴史文化図鑑～パリの記念建造物の秘密と不思議～

ドミニク・レスプロ、蔵持 不三也 著
原書房

ルーヴル宮殿の工事現場の日時計、コンシェルジュリのエロティックな中世の彫刻群、バスティーユ広場に刻まれたいつわりの痕跡、シャイヨ宮の間違い…。パリを代表する建造物の知られざる物語を、豊富な図版とともに紹介する。

2019:3./ 289p
978-4-562-05631-6
本体 ¥3,800+税



朝日新聞 2019/04/20



鯖猫長屋ふしぎ草紙<6>(PHP 文芸文庫 た7-6)

田牧 大和 著
PHP研究所

「鯖猫長屋」を仕切っている鯖縞模様の三毛猫サバには、人間の子分がふたりいる。飼い主で画描きの拾楽と、定廻同心・掛井だ。その掛井が手下の平八をかばって窮地に立たされ…。『鯖猫長屋』シリーズ第6弾。

2019:3./ 297p
978-4-569-76882-3
本体 ¥760+税



朝日新聞 2019/04/20



砺波の人びと～写真集～

山田 和 著
平凡社

富山県砺波市で昭和 50 年代以前に子ども時代を過ごした人びとのモノクロ肖像写真集。「風土」をバックに、自身の子どもの時代の古い写真を手にした姿を超広角のワイドレンズで撮影。

2019:3./ 258p
978-4-582-27829-3
本体 ¥3,000+税



朝日新聞 2019/04/20



叛徒と隠士 周作人の一九二〇年代

小川 利康 著
平凡社

1920 年代日本、西洋の多様な思想を摂取し、五・四運動以降の中国的現在と苦闘し挫折するなかで、2 匹の鬼を身の内に住ませた周作人。彼の文学革命前後からの 10 年間にわたる文学理念の変遷を、詳細に検討する。

2019:2./ 398p
978-4-582-48223-2
本体 ¥4,500+税



朝日新聞 2019/04/20



<新訳・評注>歴史の概念について

ヴァルター・ベンヤミン、鹿島 徹 著
未来社

1981年に発見されたタイプ原稿を底本に据えた、ヴァルター・ベンヤミンの遺稿「歴史の概念について」の新訳。他のバージョンの原稿を踏まえた評注を附し、未完の遺稿の新たな相貌を浮かび上がらせる。

2015/7./ 248p,3p
978-4-624-01193-2

本体 ¥2,600+税



朝日新聞 2019/04/20



自由への道〜逃亡奴隷ハリエット・タブマンの生涯〜

キャサリン・クリントン、廣瀬 典生 著
晃洋書房

1849年、奴隷主のもとから逃亡したハリエット・タブマンは、逃亡支援の秘密組織の先導者となり、南北戦争後は、同胞のための保護施設の設定に奔走し…。人種・性の差別・隔離撤廃に生涯をささげた黒人女性の伝記。

2019/3./ 3p,420p,46p
978-4-7710-3146-3

本体 ¥7,000+税



朝日新聞 2019/04/20



ハリエット・タブマン〜「モーゼ」と呼ばれた黒人女性〜

上杉 忍 著
新曜社

黒人女性として初めて米ドル紙幣を飾ることが決まったハリエット・タブマン。“私は一度しか死ぬことができない”をモットーに、聖書のモーゼのように「地下鉄道」運動で奴隷逃亡を主導したタブマンの生涯を史実に忠実に描く。

2019/3./ 288p

978-4-7885-1608-3

本体 ¥3,200+税



朝日新聞 2019/04/20



「地図感覚」から都市を読み解く〜新しい地図の読み方〜

今和泉 隆行 著
晶文社

方向音痴でない人は、地図から何を読み取っているのか？ 実在しない架空の都市の地図を描き続ける鬼才「地理人」が、地図に散らばるあらゆる情報をキャッチする方法を、日本全国の特徴的な地域を例にオールカラーで図説する。

2019/3./ 253p

978-4-7949-7073-2

本体 ¥1,900+税



朝日新聞 2019/04/20



若い読者のための考古学史(Yale University Press Little Histories)

ブライアン・フェイガン、広瀬 恭子 著
すばる舎

派手な言動で批判を招いた学者、ひたすら真面目に研究に打ちこんだ地味な学者…。各国の遺跡を取りあげ、古今東西の考古学者たちの奮闘ぶりを通して、考古学という学問の歴史と魅力をわかりやすく伝える。

2019/2./ 383p

978-4-7991-0788-1

本体 ¥3,200+税



朝日新聞 2019/04/20



高校生と考える 21世紀の論点(桐光学園大学訪問授業)

桐光学園中学校・高等学校 編
左右社

羽生善治、土井善晴、島田雅彦、穂村弘、若松英輔をはじめとする幅広いジャンルにわたる一流講師陣が、中高生の好奇心を刺激した「大学訪問授業」の記録。2018年度「桐光学園特別授業」全30回を収録。

2019/4./ 377p

978-4-86528-229-0

本体 ¥1,800+税



朝日新聞 2019/04/20



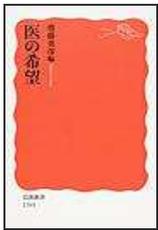
プラザ

横山 裕一 著
888ブックス

ベルトコンベアのように動く壇上で演じられる壮大な演目と、熱狂する観客の大歓声が交錯する爆発的時空間。ネオ漫画家・横山裕一が、宇宙の起源、アニミズム、神々、奉納、祭典、全体主義を謳いあげる。著者による解説も収録。

朝日新聞 2019/04/20

2019:3./ 231p
978-4-908439-11-7
本体 ¥2,200+税



医の希望(岩波新書 新赤版 1765)

齋藤 英彦 編
岩波書店

医療を必要としている人たちのために、いま、できることとは。介護を支えるロボット、治療への AI の利用、iPS 細胞による治療と創薬など、各分野のフロントランナーが、その最新の状況を実践とともに語る。

朝日新聞 2019/04/20、読売新聞 2019/04/21

2019:3./ 7p,243p
978-4-00-431765-4
本体 ¥840+税



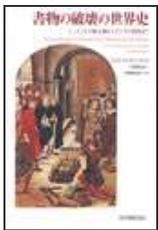
入門! 自宅で大往生～あなたもなれる「家逝き」達人・看取り名人～(中公新書ラクレ 649)

中村 伸一 著
中央公論新社

「家逝き」を望む本人と看取る側は何に備えればいいのか。「村」唯一の医師として在宅医療、介護、看取りを支援してきた経験から、4 つの「家逝き」の極意を伝授。国が推進する在宅時代の現実的な「解」を提示する。

朝日新聞 2019/04/20、読売新聞 2019/04/28

2019:3./ 225p
978-4-12-150649-8
本体 ¥860+税



書物の破壊の世界史～シュメールの粘土板からデジタル時代まで～

フェルナンド・バエス、八重樫 克彦、八重樫 由貴子 著
紀伊國屋書店出版部

シュメールの昔から、アレクサンドリア図書館の栄枯盛衰、ナチスによるビブリオコースト、イラク戦争下の略奪行為、電子テロまで。膨大な量の文献や実地調査をもとに、世界各地の書物の破壊の歴史をたどる。

朝日新聞 2019/04/20、日本経済新聞 2019/04/27

2019:2./ 739p
978-4-314-01166-2
本体 ¥3,500+税



吉野弘詩集(岩波文庫 31-220-1)

吉野 弘、小池 昌代 編
吉野 弘 著
岩波書店

結婚式の祝辞としてよく引かれる「祝婚歌」、現代における“受難”の意味を心のやさしさにみつめる「夕焼け」…。穏やかな語り口の、深い愛情に満ちた 140 篇を収めた、吉野弘の詩集。小池昌代、谷川俊太郎の解説も掲載。

朝日新聞 2019/04/27

2019:2./ 362p
978-4-00-312201-3
本体 ¥740+税



憲法講話(岩波文庫 34-032-1)

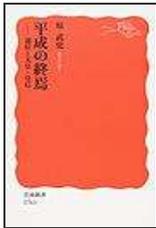
美濃部 達吉 著
岩波書店

憲法学者・美濃部達吉が、明治憲法を一般読者へ向けて体系的に講義した書。天皇は国家の最高機関であるとする天皇機関説を打ち出し、のちに国禁とされた美濃部学説の原点を知る上でも重要な著作。1918年の改訂版を収録。

朝日新聞 2019/04/27

2018:11./ 595p,10p
978-4-00-340321-1
本体 ¥1,440+税





平成の終焉～退位と天皇・皇后～(岩波新書 新赤版 1763)

原 武史 著
岩波書店

天皇制の新たなスタイルが確立された、平成という時代。日本中をくまなく訪ね歩き、自らの思いを国民に直接語りかけてきた天皇明仁と皇后美智子の「平成流」は退位後も受け継がれるのか。「象徴」と国民との奇妙な関係を問う。

2019/3./ 2p,223p,35p
978-4-00-431763-0

本体 ¥840+税



朝日新聞 2019/04/27



「日本スゴイ」のディストピア～戦時下自画自賛の系譜～(朝日文庫 は 47-1)

早川 タダフミ 著
朝日新聞出版

テレビや雑誌で目につく「日本スゴイ」の大合唱。実は満洲事変後にも、愛国本・日本主義礼賛本の大洪水が起こっていた。「礼儀正しさ」「勤勉さ」などをキーワードとして、戦時下の言説に「日本スゴイ」現象のルーツをたどる。

2019/3./ 274p

978-4-02-261960-0

本体 ¥740+税



朝日新聞 2019/04/27



学校ハラスメント～暴力・セクハラ・部活動-なぜ教育は「行き過ぎる」か～(朝日新書 709)

内田 良 著
朝日新聞出版

巨大組み体操、体罰、スクール・セクハラ、ブラック部活動、教師への暴力、いじめ件数の格差…。学校の日常に封印された「ハラスメント」の数々に、気鋭の教育社会学者が切り込む。『一冊の本』連載を単行本化。

2019/3./ 237p

978-4-02-295012-3

本体 ¥810+税



朝日新聞 2019/04/27



キャプテンマークと銭湯と

佐藤 いつ子、佐藤 真紀子 著
KADOKAWA

サッカークラブのキャプテンだった周斗は、U-14 活動初日、コーチから、大地にキャプテンを替えると告げられる。不安と苛立ちの中、周斗は偶然、かつて祖父とよく来た懐かしい銭湯を訪れたことで、遅しく成長していき…。

2019/3./ 241p

978-4-04-107705-4

本体 ¥1,300+税



朝日新聞 2019/04/27



呉書三国志

斉藤 洋 著
講談社

人望を備え、戦では先頭に立って戦う父・孫堅。孫堅の長男で、父譲りの激しい気性と勇気で江東の小霸王と呼ばれた孫策。孫堅の次男で、やがて呉の大帝となる孫権。児童文学の大家が描く、戦乱の世を生き抜いた父子の物語。

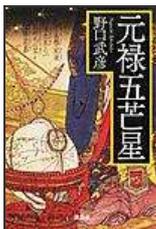
2019/3./ 351p

978-4-06-221061-4

本体 ¥1,600+税



朝日新聞 2019/04/27



元禄五芒星

野口 武彦 著
講談社

元禄から宝永は経済バブルの崩壊と災害が表裏の時代だった。漠然とした不安と鬱屈が世を覆うとき、人々はいかに生きたか。「チカラ伝説」「算法忠臣蔵」など、人生の様々な姿が浮かび上がる魔術的な時空間を描く全5篇を収録。

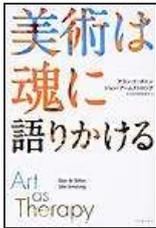
2019/3./ 241p

978-4-06-514995-9

本体 ¥2,000+税



朝日新聞 2019/04/27



美術は魂に語りかける

アラン・ド・ボトン、ジョン・アームストロング、ダコスタ吉村花子 著
河出書房新社

アートには人を癒す働きがあり、鑑賞者を導き、刺激し、なぐさめてくれる。人間がよりよく生きていこうとするときに、心の弱さを補う道具としてのアートの役割について考える。

朝日新聞 2019/04/27

2019:2./ 286p
978-4-309-25618-4
本体 ¥3,000+税



憲法入門 6訂

樋口 陽一 著
勁草書房

憲法のあるべき姿と本質を簡潔に示した憲法入門書。日本国憲法を人類社会の大きな流れのタテ糸(歴史)とヨコ糸(比較)の交差の中に位置づける。安保法制・改憲論議を見すえて加筆した6訂版。

朝日新聞 2019/04/27

2017:2./ 6p,218p,3p
978-4-326-45109-8
本体 ¥1,800+税



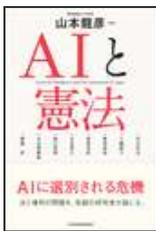
カルト資本主義 増補版(ちくま文庫 さ24-8)

斎藤 貴男 著
筑摩書房

バブル崩壊後、忽然と現れたオカルティズムと日本の企業社会との関係を、歴史的な考察、取材をもとに浮き彫りにしたノンフィクション。現在の政治社会におけるカルト状況についての書き下ろしを追加した増補版。

朝日新聞 2019/04/27

2019:3./ 458p
978-4-480-43578-1
本体 ¥950+税



AIと憲法

山本 龍彦、市川 芳治 著
日本経済新聞出版社

憲法を主題に、AI そのものに着目して、権利義務の主体たる人格ないし人権の享有主体たる個人の位置付けと、そうした主体から構成される社会における集合的な意思決定とその実現を担う統治のあり方を問う。

朝日新聞 2019/04/27

2018:8./ 473p
978-4-532-13485-3
本体 ¥2,400+税



お?かお!(あかちゃんがよろこぶうごくえほん)

ひらぎ みつえ 著
ほるぷ出版

わたしの鼻、上にむけて!ぼくのまゆげ、あげてみて!どんな顔に変わるかな?鼻や口、まゆげ、べろなど、顔のパーツを動かして遊べるしかけ絵本。

朝日新聞 2019/04/27

2017:4./ 8p
978-4-593-58324-9
本体 ¥850+税



施設とは何か〜ライフストーリーから読み解く障害とケア〜

麦倉 泰子 著
生活書院

「施設」とは単なる物理的な構造物ではない。施設での暮らしを経験した障害のある人たちとその家族、そこで働く人、支援者の語りから、施設という場で生成される関係の多様性を探る。テキストデータ引換券付き。

朝日新聞 2019/04/27

2019:2./ 283p
978-4-86500-090-0
本体 ¥3,000+税





18歳のアトム〜手塚治虫の鉄腕アトムから18歳のアトムへ〜

手塚 治虫、黒田 征太郎、稲葉 茂勝 著
今人舎

21世紀の未来を想像した舞台上で、地球と人間のために戦ってきたアトムはどうなったのか？ 手塚治虫没後30年を記念し、手塚をオマージュし続ける黒田征太郎が描くアトム。ジャケットでくるんで郵送可。

2019/4./ 32p
978-4-905530-79-4
本体 ¥1,600+税



朝日新聞 2019/04/27



ひみつのピクピク

フランチェスカ・サンナ 著
廣済堂あかつき

小さなピクピクは女の子のひみつの友だち。いつも女の子を守ってくれるピクピク。だけど、女の子が知らない国に引っ越すと、ピクピクはどんどん大きくなっていき…。新しい生活に踏み出す子どもたちを応援する絵本。

2019/4./ 33p
978-4-908255-94-6
本体 ¥1,600+税



朝日新聞 2019/04/27



森瑤子の帽子

島崎 今日子 著
幻冬舎

スノッパな女として生きた作家・森瑤子は、何のために書き続けたのか。五木寛之、山田詠美ら数多の証言から、成功を手にした女の煌めきと孤独、彼女が駆け抜けたバブル時代を照射する。『小説幻冬』連載に書き下ろしを追加。

2019/2./ 383p
978-4-344-03434-1
本体 ¥1,700+税



朝日新聞 2019/04/27、産経新聞 2019/04/28



この道

古井 由吉 著
講談社

祖先、肉親、自らの死の翳を見つめながら、綴られる日々の思索と想念。死を生の内、いにしえを現在に呼び戻す、幻視と想像力の結晶-。文学の可能性を極限まで拵げつづける古井文学の極点。『群像』掲載を書籍化。

2019/2./ 252p
978-4-06-514336-0
本体 ¥1,900+税



東京・中日新聞 2019/04/07



ノースライト

横山 秀夫 著
新潮社

一級建築士の青瀬が設計した新築の家。しかし、Y邸に越してきたはずの家族の姿はなく、一脚の「タウトの椅子」だけが浅間山を望むように残されていた。Y邸で何が起きたのか？ 一家の行方は…。『旅』連載を単行本化。

2019/2./ 429p
978-4-10-465402-4
本体 ¥1,800+税



東京・中日新聞 2019/04/07



大統領とハリウッド〜アメリカ政治と映画の百年〜(中公新書 2527)

村田 晃嗣 著
中央公論新社

1915年公開の「國民の創生」を皮切りに、アメリカ大統領を描き続けてきたハリウッド映画。全米が涙した「名作」から知られざる「迷作」まで250本以上の映画をもとに政治との相互関係を読み解き、アメリカの本質に迫る。

2019/2./ 5p,257p
978-4-12-102527-2
本体 ¥860+税



東京・中日新聞 2019/04/07



石牟礼道子 苦海浄土～悲しみのなかの真実～(NHK「100分de名著」ブックス)

若松 英輔 著
NHK出版

世界に例をみないほど大規模な公害問題、水俣病。その被害者である漁民たちの運動や、患者たちの苦悩・希望を克明に描いた自伝的小説「苦海浄土」を紐解く。書き下ろし特別章、ブックリストも収録。

2019.1./ 173p
978-4-14-081764-3
本体 ¥1,000+税



東京・中日新聞 2019/04/07



星をかすめる風

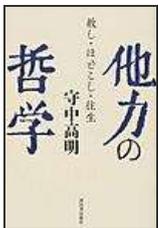
イ ジョンミョン、鴨 良子 著
論創社

一編の詩が人を変え、ひとつの言葉が世界を変える! 日本への留学中に投獄され、1945年に27歳で獄死した韓国の国民的詩人・尹東柱をめぐる愛と死の物語。刑務所での最後の1年を看守兵の目を通して描く。

2019.1./ 425p
978-4-8460-1777-4
本体 ¥2,200+税



東京・中日新聞 2019/04/07



他力の哲学～赦し・ほどこし・往生～

守中 高明 著
河出書房新社

詩人思想家がその生のすべてを賭けた「廻心」の書。法然、親鸞、一遍における熾烈な信仰の生成を、生/死を超える万人救済の教えとして徹底的に問い直し、<他力>の思考と実践を、その現代性を鳴りひびかせつつ甦らせる。

2019.2./ 249p
978-4-309-24900-1
本体 ¥2,600+税



東京・中日新聞 2019/04/07、東京・中日新聞 2019/04/14



中国銀河鉄道の旅

沢野 ひとし 著
本の雑誌社

最先端の電脳都市から広大な農村地帯へ。次々と通過する小さな駅、乗客同士のおしゃべり、何の前触れもなくやってくる車内販売…。中国大陸での列車旅を綴る。『本の雑誌』連載を加筆し書籍化。見返しにイラストあり。

2019.2./ 353p
978-4-86011-425-1
本体 ¥1,800+税



東京・中日新聞 2019/04/14、日本経済新聞 2019/04/20



進化の法則は北極のサメが知っていた(河出新書 004)

渡辺 佑基 著
河出書房新社

恐竜、ミジンコ、アザラシ、そしてヒト。多様な生物が繁栄した背後にある物理法則とは-。「体温」という切り口から地球上に暮らす様々な生物を見渡し、その生き方を決定づけるメカニズムに迫る。

2019.2./ 343p
978-4-309-63104-2
本体 ¥920+税



東京・中日新聞 2019/04/14、日本経済新聞 2019/04/27



魔眼の匣の殺人

今村 昌弘 著
東京創元社

その日、“魔眼の匣”を9人が訪れた。人里離れたその施設の主は、予言者と恐れられる老女だ。彼女は葉村譲と剣崎比留子をはじめとする来訪者に「あと2日のうちに、この地で4人死ぬ」と告げた…。シリーズ第2弾。

2019.2./ 333p
978-4-488-02796-4
本体 ¥1,700+税



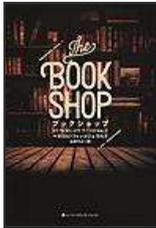
東京・中日新聞 2019/04/14、日本経済新聞 2019/04/27

**渡来人と帰化人(角川選書 614)**田中 史生 著
KADOKAWA

古代史料に即して「渡来」と「帰化」の意味を捉え直し、渡来人を<移動者>と再定義。<移動>をキーワードに、現代日本と繋がりつつも、異質で多様な古代の「倭」「日本」、国際社会と結びつく古代列島社会の姿を解説する。

2019/2./ 313p
978-4-04-703632-1
本体 ¥1,700+税

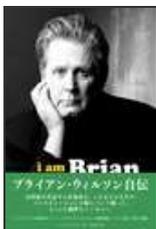
東京・中日新聞 2019/04/21

**ブックショップ**ペネロピ・フィッツジェラルド、山本 やよい 著
ハーバーコリンズ・ジャパン

1959年英国。本屋のない海辺の小さな町。フローレンスは本への情熱を胸に、<オールド・ハウス書店>を開店させる。人と本との、心揺さぶる物語。2019年3月公開映画「マイ・ブックショップ」の原作。

2019/3./ 188p
978-4-596-55208-2
本体 ¥1,700+税

東京・中日新聞 2019/04/21

**ブライアン・ウィルソン自伝**ブライアン・ウィルソン、ベン・グリーンマン、松永 良平 著
DU BOOKS

心の中の悪魔。クリエイティヴの源泉。晴れやかで最高なカリフォルニア・ライフと弱り果てて最低の日々…。20世紀を代表する音楽家ブライアン・ウィルソンが、創造と狂気の間で揺れながら闘ってきた自身の歴史を綴る。

2019/3./ 498p 図版
16p
978-4-86647-026-9
本体 ¥3,000+税

東京・中日新聞 2019/04/21

**4年8か月の激闘**手倉森 誠 著
KADOKAWA

あの日、あの時、あの場所で、果たして何があったのか。勝敗の裏側で、スタッフと選手たちはどんなふうに格闘していたのか。リオ五輪では代表監督を務め、ロシア W杯にはコーチとして臨んだ著者が、激闘の日々を振り返る。

2019/2./ 231p
978-4-04-107374-2
本体 ¥1,500+税

東京・中日新聞 2019/04/28

**航跡 真実の航跡**伊東 潤 著
集英社

太平洋戦争中に起きた非道な捕虜殺害事件。戦後、BC級戦犯裁判の弁護人となった鮫島は、裁判資料を読み込むうちに、この事件が、大日本帝国海軍が抱える闇に気づき…。『小説すばる』連載を加筆し書籍化。

2019/3./ 366p
978-4-08-771180-6
本体 ¥1,800+税

東京・中日新聞 2019/04/28

**ある若き死刑囚の生涯(ちくまプリマー新書 317)**加賀 乙彦 著
筑摩書房

罪を見つめ、罪を引き受けるとはどういうことか。死を受け入れ、乗り越えて生きることが可能か。1968年の横須賀線爆破事件の犯人である死刑囚と親密な交流をもった作家が、豊富な資料をもとにその姿を描き出す。

2019/1./ 223p
978-4-480-68342-7
本体 ¥840+税

東京・中日新聞 2019/04/28



発酵食の歴史

マリー=クレール・フレデリック、吉田 春美 著

原書房

先史時代から現代まで、歴史、考古学、科学の側面から世界各地の発酵食品を考察。最新の考古学上の発見や、世界の伝説や伝承話を交えながら、発酵の世界の奥深さと豊かさを多角的に論じる。発酵料理のレシピも掲載。

東京・中日新聞 2019/04/28

2019:2./ 341p

978-4-562-05633-0

本体 ¥3,500+税



僕とライカ～木村伊兵衛傑作選+エッセイ～

木村 伊兵衛 著

朝日新聞社

「ライカの名人」とうたわれた巨匠・木村伊兵衛のエッセイ+写真集。ライカ論を中心に、自伝、ブレッソンらの人物論、写真論、土門拳との対談などファン垂涎の 18 編と、代表作 59 点と自作解説を収録。

読売新聞 2019/04/07

2003:5./ 186p

978-4-02-257832-7

本体 ¥2,000+税



桜守のはなし

佐野 藤右衛門 著

講談社

桜は手いれではなく、「守り」をして継いでやらない絶えてしまう木なんです。京都の植藤造園の十六代目・佐野藤右衛門が、「桜守」の 1 年間の仕事を通じて、いのちをつなぐとはどういったことかを伝える。

読売新聞 2019/04/07

2012:3./ 32p

978-4-06-217519-7

本体 ¥1,500+税



不自然な宇宙～宇宙はひとつだけなのか?～(ブルーボックス B-2084)

須藤 靖 著

講談社

なぜ地球はこの場所にあるのか? 我々の宇宙は唯一の存在なのか? 最新物理学の観測事実に基づいた「マルチバース」と「人間原理」を、宇宙論研究者が徹底解説する。2017 年に東京大学で行った講義をもとにした書。

読売新聞 2019/04/07

2019:1./ 230p

978-4-06-514465-7

本体 ¥1,000+税



花のことば辞典～四季を楽しむ～(講談社学術文庫 2545)

宇田川 真人 著

講談社

どんな小さな花にも物語(ドラマ)がある。古来、人びとは暮らしの中の喜びや悲しみを花に託し、詩歌、神話として歌い、語り継いできた。その知られざる逸話の数々を慣用語や花言葉とともに解説する。

読売新聞 2019/04/07

2019:3./ 283p

978-4-06-514684-2

本体 ¥1,110+税



「承認欲求」の呪縛(新潮新書 800)

太田 肇 著

新潮社

「認められたい」が破滅を招く! 誰もがもつ「承認欲求」の本質を深く探り、上手にコントロールする画期的な方法を示す。人間関係の向上や組織での成果アップに変換するヒントが満載。

読売新聞 2019/04/07

2019:2./ 236p

978-4-10-610800-6

本体 ¥780+税





落花

澤田 瞳子 著
中央公論新社

己の音楽を究めんと、幻の師を追い京から東国へ下った仁和寺の梵唄僧・寛朝。そこで彼は、荒ぶる地の化身のようなもののふ、平将門と出会い…。武士の世の胎動を描く歴史長篇。『読売新聞』連載を加筆し単行本化。

読売新聞 2019/04/07

2019:3./ 410p
978-4-12-005174-6
本体 ¥1,700+税



星の文人 野尻抱影伝(中公文庫 い107-2)

石田 五郎 著
中央公論新社

飽くことなく星への憧憬を語って大正・昭和の天文少年少女を魅了し尽した“星の文人”野尻抱影。江戸趣味人の博識、心霊学への肩入れ、末弟・大佛次郎に見せる長兄の厳しさ…。『二世天文屋』を自任した天文学者による評伝。

読売新聞 2019/04/07

2019:2./ 343p
978-4-12-206689-2
本体 ¥1,000+税



さまよう遺骨～日本の「弔い」が消えていく～(NHK 出版新書 578)

NHK 取材班 著
NHK出版

いま、行き場を失う遺骨が急増している。そうならないために、誰にどう死後を託せばいいのか。変容する弔いのかたちを見つめ直し、「真の終活」とは何かを考える。NHK 番組「クローズアップ現代+」などを書籍化。

読売新聞 2019/04/07

2019:3./ 202p
978-4-14-088578-9
本体 ¥780+税



青い眼がほしい(ハヤカワ epi 文庫)

トニ・モリスン 著
早川書房

読売新聞 2019/04/07

2001:6./ 323p
978-4-15-120006-9
本体 ¥780+税



箱の中の天皇

赤坂 真理 著
河出書房新社

2つの箱のうち、1つは本物、1つは偽物。マリに与えられたミッションは偽物を、マッカーサーの持つ本物とすり替えることだった…。日本人の行方を問う天皇小説。「大津波のあと」も併録。『文藝』『新潮』掲載を単行本化。

読売新聞 2019/04/07

2019:2./ 222p
978-4-309-02775-3
本体 ¥1,400+税



アマゾンの倉庫で絶望し、ウーバーの車で発狂した～潜入・最低賃金労働の現場～

ジェームズ・ブラッドワース、濱野 大道 著
光文社

何気ないワンクリックに翻弄される労働者たちの現場から見えてきたのは、資本主義、管理社会の極地だった。アマゾンの倉庫からウーバーのタクシーまで、英国で“最底辺”の労働に就いたジャーナリストがその体験を報告する。

読売新聞 2019/04/07

2019:3./ 340p
978-4-334-96227-2
本体 ¥1,800+税





エドガー・ヴァレーズ～孤独な射手の肖像～

沼野 雄司 著
春秋社

20 世紀の音楽界でただひたすらに新しい音響の創出のみを志した作曲家エドガー・ヴァレーズ。その波乱に満ちた生涯と、比類なき創作の軌跡を明らかにする。年譜・主要楽曲解説も収録。

2019:1./ 513p,34p
978-4-393-93214-8
本体 ¥4,800+税



読売新聞 2019/04/07



南スーダンに平和をつくる～「オールジャパン」の国際貢献～(ちくま新書 1382)

紀谷 昌彦 著
筑摩書房

半世紀にわたる内戦を経て独立した南スーダン。自衛隊派遣、JICA など、様々な形で貢献してきた日本。現場では何が起こり、何が必要とされていたのか。元駐南スーダン大使が、支援の最前線での経験と葛藤を伝える。

2019:1./ 232p
978-4-480-07197-2
本体 ¥800+税



読売新聞 2019/04/07



お好み焼きの物語～執念の調査が解き明かす新戦前史～

近代食文化研究会 著
新紀元社

お好み焼きは大阪や広島ではなく東京で誕生した。ソース焼きそばはお好み焼きの一種。人形焼や鯛焼がお好み焼き誕生に関係…。これまで定説とされ信じられてきた、お好み焼きの歴史を覆す一冊。

2019:1./ 319p
978-4-7753-1667-2
本体 ¥2,000+税



読売新聞 2019/04/07



ふらりと寄席に行ってみよう

佐藤 友美 著
辰巳出版

東京にある 5 つの定席から、寄席の裏側、落語や講談の楽しみ方、寄席で出会いたい芸人さん、古典落語のあらすじまで、寄席の楽しみ方をイラストで紹介する。柳家喬太郎らのインタビューも収録。データ:2018 年 12 月現在。

2019:2./ 143p
978-4-7778-2244-7
本体 ¥1,400+税



読売新聞 2019/04/07



桜の科学～日本の「サクラ」は 10 種だけ?新しい事実、知られざる由来とは～(サイエンス・アイ新書 SIS-399)

勝木 俊雄 著
SBクリエイティブ

東京から桜が消える? 染井吉野は一斉に咲く? 温暖化で開花は早まるのか...? 生き物としての桜を 20 年以上研究している著者が、DNA 分析や歴史資料等でわかった桜の知られざる面や由来を、50 のトピックスで紹介する。

2018:2./ 191p
978-4-7973-8931-9
本体 ¥1,000+税



読売新聞 2019/04/07



まく子(福音館文庫)

西 加奈子 著
福音館書店

温泉街に住む小 5 の「僕」は、子どもと大人の狭間にいた。「大人」になっていく女子が恐ろしくて、変わっていく自分の身体に抗おうとしていた。そんな時、とても変できれいなコズエガがやってきて…。2019 年公開映画の原作。

2019:2./ 253p
978-4-8340-8443-6
本体 ¥650+税



読売新聞 2019/04/07



柴田是真の植物図～東京藝術大学大学美術館所蔵～

柴田 是真、横溝 廣子、薩摩 雅登 著
光村推古書院

幕末から明治にかけて蒔絵・漆絵・絵画で活躍し、多くの名作を残した柴田是真。東京藝術大学が所蔵する柴田の作品のうち、植物をモチーフとする図を収録する。ジャケット裏に、「明治宮殿千種之間天井画下絵」の配置を掲載。

2013.9./ 319p
978-4-8381-0495-6
本体 ¥2,000+税



読売新聞 2019/04/07



釜石の風～照井翠エッセイ集～

照井 翠 著
コールサック社

海嘯の合間あひまの茂りかな 人間とは、津波と津波の間に僅かに茂らせて貰っている存在なのか。震災や被災地に関わるエッセイをまとめる。『河北新報』、俳誌『藍生』ほか掲載を書籍化。

2019.3./ 255p
978-4-86435-377-9
本体 ¥1,500+税



読売新聞 2019/04/07



さくら

野呂 希一、浅利 政俊 著
青菁社

見る、知る、楽しむを目的とした魅力満載の桜写真集。山の桜、伝統が育てた濃艶な園芸種、伝統を生かす現代の桜など、さまざまな桜の写真を品種解説等をそえて収録する。撮影地リスト、桜品種索引も掲載。

2019.2./ 190p
978-4-88350-322-3
本体 ¥2,000+税



読売新聞 2019/04/07



新記号論～脳とメディアが会おうとき～(ゲンロン叢書 002)

石田 英敬、東 浩紀 著
ゲンロン

現代人はつねにネットワークに接続されている。それはなにを意味するのか。ヒトと機械のインターフェイス=境界面の本質を明らかにする、ゲンロンカフェでの伝説の白熱講義と、書き下ろしの補足的論文を収録する。

2019.3./ 447p
978-4-907188-30-6
本体 ¥2,800+税



読売新聞 2019/04/07



小川未明に親しむ(イミタチオ叢書)

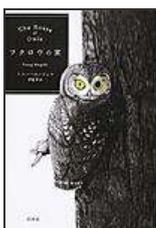
小椋 裕二 著
蒼丘書林

1200 編余の童話を生み出した小川未明。童話の新たな解釈を示しながら、波乱にみちた創作活動の軌跡をたどるとともに、多彩な作品群から有名な童話や注目される童話を選んで紹介する。『上越タイムス』連載をもとに書籍化。

2019.3./ 253p
978-4-915442-35-3
本体 ¥1,800+税



読売新聞 2019/04/07



フクロウの家

トニー・エンジェル、伊達 淳 著
白水社

画家、彫刻家として名高い著者が、フクロウと共に生き、触れ合った日々の記録。全米に生息する 19 種の生態の紹介と、緻密な観察に基づく美しい挿画約 100 点も収録した観察エッセイ。

2019.2./ 277p,7p
978-4-560-09675-8
本体 ¥3,000+税



読売新聞 2019/04/07、朝日新聞 2019/04/13



袋小路の男(講談社文庫)

糸山 秋子 著
講談社

高校の先輩、小田切孝に出会ったその時から、大谷日向子の思いは募っていった。大学に進学して、社会人になっても、指さえ触れることもなく、ただ思い続けた 12 年。それでも日向子の気持ち、離れることはなかった。

2007:11./ 179p
978-4-06-275884-0
本体 ¥400+税



読売新聞 2019/04/14



人外

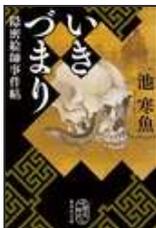
松浦 寿輝 著
講談社

アラカシの枝の股から滲みだし、四足獣のかたちをとった「それ」は、荒廃した世界の風景を横切り…。ゆくてに待ち受けるのは、いったい何か？ 世界のへりをめぐるよるべない魂の旅を描く小説。『群像』連載を単行本化。

2019:3./ 269p
978-4-06-514724-5
本体 ¥2,300+税



読売新聞 2019/04/14



いきづまり(集英社文庫 い80-4)

池 寒魚 著
集英社

絵師の誠之進は磐城平藩へ向かう。ほどなく江戸が官軍の手に落ち、誠之進らの元へも追撃の軍勢が。敗走する先で絵師が目の当たりにする旧幕府軍の悲劇。そして再会した土方歳三と…。幕末明治史の裏側にせまるシリーズ最終巻。

2019:3./ 328p
978-4-08-745857-2
本体 ¥650+税



読売新聞 2019/04/14



黄泉がえり again(新潮文庫 か-18-13)

梶尾 真治 著
新潮社

あの大地震から 2 年。熊本で、死者が次々生き返る「黄泉がえり」現象が再び発生。彼らは何のために戻ってきたのか。大切な人を想う気持ちが起こした奇跡は、予想を遙かに超え…。『熊本日日新聞』夕刊連載に加筆し文庫化。

2019:3./ 499p
978-4-10-149013-7
本体 ¥750+税



読売新聞 2019/04/14



教育激変～2020 年、大学入試と学習指導要領大改革のゆくえ～(中公新書ラクレ 653)

池上 彰、佐藤 優 著
中央公論新社

なぜいま教育は大改革を迫られるのか。文科省が目指す「主体的・対話的で深い学び」とはなにか。日本の教育の問題点と新たな教育改革の意味を解き明かす。大学入試センター・山本廣基との鼎談も収録。

2019:4./ 220p
978-4-12-150653-5
本体 ¥840+税



読売新聞 2019/04/14



なぜ大谷翔平はメジャーを沸かせるのか(NHK 出版新書 579)

ロバート・ホワイティング 著
NHK出版

もし大谷翔平が「初めてメジャーに挑戦した日本人」だったら、あの熱狂はありえたか？ 大谷の異能を詳説しつつ、助っ人“ガイジン選手”の活躍、野茂英雄らの苦闘をたどり、大谷現象の背景をエピソード豊かに解き明かす。

2019:3./ 285p
978-4-14-088579-6
本体 ¥860+税



読売新聞 2019/04/14



江戸の不動産(文春新書 1210)

安藤 優一郎 著
文藝春秋

江戸を世界一の大都市に押しあげた原動力は、活発な不動産取引だった。払い下げ、礼金、地上げ、貸家経営、裏工作、土地交換…。武士も町人も農民も参入した、江戸時代の不動産ビジネスの実態を浮き彫りにする。

2019/3./ 207p
978-4-16-661210-9
本体 ¥820+税



読売新聞 2019/04/14



探検家の事情(文春文庫 か 67-2)

角幡 唯介 著
文藝春秋

不惑をすぎても妻とケンカ、忘れ物をしすぎて北極で死にそうに！非日常を追求した探検家・角幡唯介が、実は小市民的すぎる日常を明かすエッセイ集。ヤフー会長・宮坂学との対談を収録して文庫化。

2019/4./ 250p
978-4-16-791265-9
本体 ¥690+税



読売新聞 2019/04/14



上野千鶴子のサバイバル語録(文春文庫 う 28-4)

上野 千鶴子 著
文藝春秋

「逆風は快樂である」「立ちほだかる壁は、迂回せよ」「母娘対決のタイミングを逃すな」「年下の友人をつくる秘訣」…。仕事、結婚、家族、老後を乗り切るための語録集。過去の著作群から抜粋した 140 の金言を収録。

2019/4./ 175p
978-4-16-791268-0
本体 ¥560+税



読売新聞 2019/04/14



海洋戦略論～大国は海でどのように戦うのか～

後瀉 桂太郎 著
勁草書房

冷戦末期から 21 世紀現在まで、何が主要国の海洋戦略を決めてきたのか？ 米国、英国、日本、ロシア、中国、インドを領域拒否、制海、戦力投射の 3 点から比較し、海洋領域における軍事戦略を理解するための視座を提供する。

2019/2./ 12p,235p
978-4-326-30275-8
本体 ¥4,000+税



読売新聞 2019/04/14



内村鑑三～その聖書読解と危機の時代～(筑摩選書 0172)

関根 清三 著
筑摩書房

戦争と震災。この 2 つの危機に対し、内村鑑三はどのように立ち向かったのか。聖書学の視点から、内村の聖書研究に基づく現実との格闘を追っていく。近代日本を代表するキリスト者の思想的可能性と現代的射程を問う一冊。

2019/3./ 382p
978-4-480-01678-2
本体 ¥1,800+税



読売新聞 2019/04/14



穂高小屋番レスキュー日記

宮田 八郎 著
山と溪谷社

誰よりも穂高を愛し、穂高に暮らし、仲間とともに多くの遭難者を救助した熱血漢。現場に長く居たからこそ経験できた山岳遭難救助の実態を綴った、穂高岳山荘元支配人・宮田八郎の遺稿集。

2019/3./ 257p
978-4-635-51030-1
本体 ¥1,500+税



読売新聞 2019/04/14



ランニング 復刻新装版

金栗 四三、増田 明美 著
時事通信出版局

日本マラソン界の発展に大きく寄与し、日本の「マラソンの父」と称される金栗四三。1916年、金栗が短距離ランナーとの共著で刊行した「ランニング」のうち、金栗が執筆した長距離の部分の復刊する。増田明美の解説も収録。

2019.3./ 217p
978-4-7887-1607-0
本体 ¥1,500+税



読売新聞 2019/04/14



90秒の別世界～短歌のとなりの物語～

千葉 聡 著
リットーミュージック

なくならないマヨネーズ、大学生最後の日に会った友達…。不思議な設定と、意外な結末。あっと驚く展開に、ほっこりするラスト。ショートショートと現代短歌を組み合わせた一冊。『短歌研究』連載他を書籍化。

2019.3./ 206p
978-4-8456-3343-2
本体 ¥1,500+税



読売新聞 2019/04/14



うたかた～七代目鶴澤寛治が見た文楽～

鶴澤 寛治、中野 順哉 著
関西学院大学出版会

人形浄瑠璃文楽の三味線、人間国宝七代目鶴澤寛治の記憶にだけ残る文楽の世界。父である六代目の背、大阪大空襲、文楽座の焼失、復興と分裂、七代目襲名など、戦前から現在までの道のりを文章で再構築する。

2019.2./ 5p,104p
978-4-86283-271-9
本体 ¥1,500+税



読売新聞 2019/04/14



「雪風」に乗った少年～十五歳で出征した「海軍特別年少兵」～

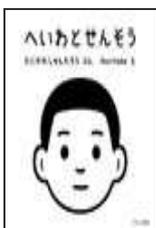
西崎 信夫、小川 万海子 編
西崎 信夫 著
藤原書店

1942年に「海軍特別年少兵」の第1期生として15歳で出征した西崎信夫が、「必ず生きて帰ってこい」という母の言葉を胸に、稀代の幸運艦「雪風」に乗って生き抜いた命の物語。編者・小川万海子によるコラム等も掲載する。

2019.1./ 326p
978-4-86578-209-7
本体 ¥2,700+税



読売新聞 2019/04/14



へいわとせんそう

たにかわ しゅんたろう、Noritake 著
ブロンズ新社

「へいわのボク」と「せんそうのボク」では、なにが変わるのだろう。比べてみると、平和と戦争の違いが見えてくる。谷川俊太郎の言葉と Noritake の絵による、これまでにない平和絵本。

2019.3./ 1冊(ページ付なし)

978-4-89309-657-9
本体 ¥1,200+税



読売新聞 2019/04/14



レコード越しの戦後史～歌謡曲でたどる戦後日本の精神史～(ele-king books)

とみさわ 昭仁 著
Pヴァイン

日本の戦後、そこにはつねに歌謡曲(レコード)があった。ヒット曲からロッキード事件など犯罪を歌ったもの、社会現象を題材にした珍レコードまで、歌謡曲で辿る戦後日本の精神史。『水道橋博士のメルマ旬報』連載に加筆訂正。

2019.2./ 220p
978-4-909483-20-1
本体 ¥1,800+税



読売新聞 2019/04/14



ゾンビで学ぶ A to Z～来るべき終末を生き抜くために～

ポール・ルイス、ケン・ラマグ、伊藤 詔子 著
小鳥遊書房

父親が息子に語り聞かせたお話には、A(アステロイド)から Z(ゾンビ)まで、アルファベットのすべての文字に迫りくる危険が込められていて…。悲惨な時代の終末到来を、詩とイラストで描いたブラックユーモアな絵本。

2019:1./ 1 冊(ページ付なし)

978-4-909812-02-5

本体 ¥1,400+税



読売新聞 2019/04/14



ニワトリは一度だけ飛べる(朝日文庫 し 25-5)

重松 清 著
朝日新聞出版

左遷部署に異動となった酒井裕介のもとに謎のメールが届くように。題名は「ニワトリは一度だけ飛べる」。送り主は酒井らを「オズの魔法使い」になぞらえ、何か伝えようとしているようなのだが…。『週刊朝日』連載を加筆修正。

2019:3./ 321p

978-4-02-264920-1

本体 ¥680+税



読売新聞 2019/04/14、日本経済新聞 2019/04/20



ことり(朝日文庫 お 52-2)

小川 洋子 著
朝日新聞出版

人間の言葉は話せないけれど、小鳥のさえずりを理解する兄と、兄の言葉を唯一わかる弟。二人は支えあってひっそりと生きていく。やがて兄は亡くなり、弟は「小鳥の小父さん」と人々に呼ばれて…。慎み深い兄弟の一生を描く。

2016:1./ 311p

978-4-02-264803-7

本体 ¥580+税



読売新聞 2019/04/21



団地と移民～課題最先端「空間」の闘い～

安田 浩一 著
KADOKAWA

排外主義的なナショナリズムに世代間の軋轢、都市のスラム化、外国人居住者との共存共栄…。かつて「夢と希望の地」だった団地は、課題最先端「空間」となっていた！日本各地に加えてテロ後のバリ郊外も取材した、団地ルポ。

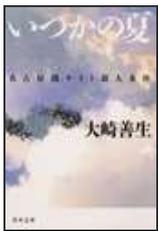
2019:3./ 253p

978-4-04-101388-5

本体 ¥1,600+税



読売新聞 2019/04/21



いつかの夏～名古屋闇サイト殺人事件～(角川文庫 お 49-10)

大崎 善生 著
KADOKAWA

「闇サイト」で集まった凶漢 3 人の犯行により命を落としたひとりの女性。彼女はなぜ殺されなくてはならなかったのか。そして何を残したのか。被害女性の生涯に寄り添いながら、事件に迫る。

2019:3./ 398p

978-4-04-107113-7

本体 ¥720+税



読売新聞 2019/04/21



ダム・キーパー

トンコハウス 著
KADOKAWA

ピッグはダム・キーパー。だれも知らないところで、たったひとり「くらやみ」から町を守っていて…。同名の短編アニメ映画の世界をそのままに、すべてのアートを新しく描き下ろした絵本。

2019:3./ 32p

978-4-04-107987-4

本体 ¥1,600+税



読売新聞 2019/04/21

**大名庭園～江戸の饗宴～(講談社選書メチエ)**

白幡 洋三郎 著

講談社

後樂園、六義園、浴恩園など江戸の大名達が競って作った大庭園は、京の庭園をしのご造形をもった「社交」と「儀礼」の装置であった。大名庭園の真実の姿に迫り、京都一辺倒の日本庭園史をくつがえす。(ソフトカバー)

1997:4./ 264p

978-4-06-258103-5

本体 ¥1,553+税



読売新聞 2019/04/21

**天然知能(講談社選書メチエ 691)**

郡司 ペギオ幸夫 著

講談社

いまこそ天然知能を解放しよう。人工知能と対立するのではなく、想像もつかない「外部」と邂逅するために。「知覚できないが存在する外部」について、多様な動物の行動や植物の実験をモチーフに論じる。

2019:1./ 249p

978-4-06-514513-5

本体 ¥1,700+税



読売新聞 2019/04/21

**戦後最大の偽書事件「東日流外三郡誌」(集英社文庫 さ62-1)**

斉藤 光政 著

集英社

青森の農家から膨大な数の古文書が見つかった。ところがその真偽を問う一大論争が巻き起こり…。東奥日報の記者が綿密な取材を重ね、偽書である証拠を突き付けていく迫真のルポ。新章「あれから十二年-偽書事件の今」も収録。

2019:3./ 463p

978-4-08-745852-7

本体 ¥800+税



読売新聞 2019/04/21

**根っこと翼～皇后美智子さまという存在の輝き～**

末盛 千枝子 著

新潮社

人々の喜びとなり、結び目のような存在でありたい。国民の幸せを祈り続けた、皇后美智子さまのご成婚 60 年の歩みと聡明で美しい素顔を無二の親友・末盛千枝子が綴る。『波』連載に加筆・修正し単行本化。

2019:3./ 187p 図版 8

枚

978-4-10-340022-6

本体 ¥1,300+税



読売新聞 2019/04/21

**最後の秘境 東京藝大～天才たちのカオスな日常～<1>(パンチコミックス)**

土岐 篤子、二宮 敦人 著

新潮社

藝大生を妻に持つ主人公は、彼女の突拍子もない行動を目にするうち、藝大生に興味を抱き、潜入取材をする事に。そこで目にした驚きの実態とは...!?謎に満ちた“芸術界の東大”のカオスな日常を描く、抱腹絶倒の探検記。

2019:4./ 192p

978-4-10-772169-3

本体 ¥600+税



読売新聞 2019/04/21

**インソムニア**

辻 寛之 著

光文社

PKO 部隊の陸上自衛官 7 人。1 人は現地で死亡、1 人は帰国後自殺。現地で起きたことについて、残された 5 人の証言はすべて食い違っていた…。社会派と本格ミステリーを融合した傑作。

2019:2./ 313p

978-4-334-91269-7

本体 ¥1,500+税



読売新聞 2019/04/21



音のウチ・ソト〜作曲家のおしゃべり〜

池辺 晋一郎 著
新日本出版社

若村麻由美、小池昌代、池澤夏樹の各氏と語り合った芝居と音楽、言葉と音楽、時代と音楽。そして明かした音符と作曲家の間柄の話。著者の作曲生活を垣間見る貴重なトークに、音楽の楽しさを再発見する一冊。

2019.3./ 199p
978-4-406-06343-2
本体 ¥1,700+税



読売新聞 2019/04/21



これで古典がよくわかる(ちくま文庫)

橋本 治 著
筑摩書房

読売新聞 2019/04/21

2001.12./ 253p
978-4-480-03690-2
本体 ¥680+税



働き方 2.0vs4.0〜不条理な会社人生から自由になれる〜

橘 玲 著
PHP研究所

働き方 2.0 を実現したとしても、それではぜんぜん世界の潮流に追いつけない。日本人の働き方はこれからどうなっていくのか、急速に変わりつつある世界でどのように生き延びればいいのかを考える。

2019.3./ 271p
978-4-569-84100-7
本体 ¥1,500+税



読売新聞 2019/04/21



ジェフリー・バワ全仕事

デイヴィッド・ロブソン、高橋 正明 著
グラフィック社

地域の建築の伝統と現代的な様式、感性を融合し、「調和と心地よさ」を具現化したスリランカの建築家ジェフリー・バワ。これまで知られていないものも含む重要な作品を集め、豊富な写真とともにその真価を紹介する。

2019.2./ 278p
978-4-7661-3205-2
本体 ¥9,100+税



読売新聞 2019/04/21



TANKURI〜創造性を撃つ〜

中村 恭子、郡司 ペギオ幸夫 著
水声社

日本画家・中村恭子の作品を題材にしなが、創造とは何か、藝術とは何かについて論じた、画集であり理論書でもある一冊。パノラマページの「皿鉢絵」を含め、カラー図版を多数収録。

2018.12./ 198p
978-4-8010-0389-7
本体 ¥4,000+税



読売新聞 2019/04/21



さいごの散歩道

長嶺 超輝、夜久 かおり 著
雷鳥社

終点の駅。ハルはホームへ車いすを押し出し、改札階へ降りる。ふたりにとって、さいごの散歩道の始まりだった。「要介護」の母を世話する息子ハルは生活に困窮し…。介護殺人に至った実話を優しい絵とともに描く。

2019.3./ 77p
978-4-8441-3753-5
本体 ¥1,500+税



読売新聞 2019/04/21



ブルキナファソを喰う!〜アフリカ人類学者の西アフリカ「食」のガイド・ブック〜(叢書・地球のナラティブ)

清水 貴夫 著

あいり出版

25年間にわたりブルキナファソで文化人類学のフィールドワークを展開している著者が伝える、現地の素顔。ブルキナファソと西アフリカの食の世界を、写真を交えて紹介する。

2019:2./ 277p
978-4-86555-066-5
本体 ¥1,800+税



読売新聞 2019/04/21



ハバナ零年(世界浪漫派)

カルラ・スアレス、久野 量一 著

共和国/editorial republica

1993年、キューバ。数学教師のジュリアは、ハバナで初めて電話が発明されたことを証明する、重要な文書の存在を知る。それをめぐって、作家、ジャーナリスト、そして元恋人までが虚々実々の駆け引きと恋を展開するが...

2019:2./ 277p
978-4-907986-53-7
本体 ¥2,700+税



読売新聞 2019/04/21



ブレグジット・パラドクス〜欧州統合のゆくえ〜

庄司 克宏 著

岩波書店

英国のEU離脱(ブレグジット)は、欧州に、そして世界に、何をもたらすのか。EU研究の第一人者が、ブレグジット交渉の帰趨を決めることとなった3つの問題に焦点を当て、英国の交渉目標とレッドラインの修正の軌跡を追う。

2019:3./ 6p,188p
978-4-00-061332-3
本体 ¥2,100+税



読売新聞 2019/04/28



肖像彫刻家

篠田 節子 著

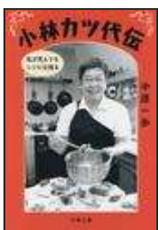
新潮社

芸術の道を諦め、八ヶ岳山麓で銅像職人として再出発した正道。しかし彼の作品には、文字通り魂が宿ってしまうのだ。周囲の思惑そっちのけで、銅像たちが語り始めたホンネとは...『小説新潮』掲載を単行本化。

2019:3./ 302p
978-4-10-313365-0
本体 ¥1,700+税



読売新聞 2019/04/28



小林カツ代伝〜私が死んでもレシピは残る〜(文春文庫 な 81-1)

中原 一歩 著

文藝春秋

料理本230冊以上、考案したレシピは1万超。“家庭料理のカリスマ”と称された不世出の料理研究家・小林カツ代の天性の舌は、どのように培われたのか。その波乱万丈の生涯を、伝説のレシピと共に描く。

2019:4./ 283p
978-4-16-791266-6
本体 ¥700+税



読売新聞 2019/04/28



女性リーダー育成のために〜グローバル時代のリーダーシップ論〜

お茶の水女子大学グローバルリーダーシップ研究所 編

勁草書房

お茶の水女子大学グローバルリーダーシップ研究所が10年にわたり開講してきた連続講演会の成果をまとめたもの。各界の先端で活躍している講師らが、それぞれの経験に基づき、真のリーダーシップとは何かを語る。

2019:2./
11p,244p,20p
978-4-326-65421-5
本体 ¥2,500+税



読売新聞 2019/04/28



くれなゐの紐(光文社文庫 す 13-1)

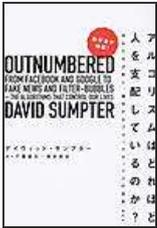
須賀 しのぶ 著
光文社

自殺を装い姿を消した姉を追って浅草にやってきた仙太郎は、男子禁制の少女ギャング団・紅紐団の団長・操と出会う。紅紐団に仙太郎は女装して潜り姉を探すが、その裏では彼の知らぬある企みが進行していた...

2019/3./ 431p
978-4-334-77818-7
本体 ¥760+税



読売新聞 2019/04/28



アルゴリズムはどれほど人を支配しているのか?~数学者が検証!~

デイヴィッド・サンプター、千葉 敏生、橋本 篤史 著
光文社

「いいね!」するたび、分析される? 数学者がみずから、さまざまな簡易的実験や関係者に取材し、アルゴリズムや AI の現在の到達点、将来の可能性と限界を評価。AI 脅威論の真実に迫り、疑問と疑念を解き明かす。

2019/4./ 354p
978-4-334-96228-9
本体 ¥1,900+税



読売新聞 2019/04/28



定年前後「これだけ」やればいい~人生後半 40 年に差がつく習慣~(青春新書 INTELLIGENCE PI-564)

郡山 史郎 著
青春出版社

早く頭を切り替えた人ほど、人生後半うまくいく! 多くの再就職をサポートしてきた人材紹介のプロが、定年前後に「やるべきこと」こと、人生後半からの新しい働き方などを解説する。成功事例も収録。

2019/3./ 188p
978-4-413-04564-3
本体 ¥950+税



読売新聞 2019/04/28



おまじない

西 加奈子 著
筑摩書房

少女、モデル、キャバ嬢、レズビアン...。社会の価値観に縛られ、「生きづらさ」を感じている「女の子」たちが「おじさん」のなにげない一言で救われ...。全 8 編を収録。『ちくま』連載に書き下ろしを加えて単行本化。

2018/2./ 229p
978-4-480-80477-8
本体 ¥1,300+税



読売新聞 2019/04/28



わたしもじだいのいちぶです~川崎桜本・ハルモニたちがつづった生活史~

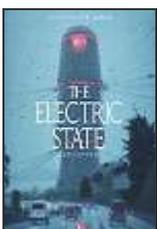
康 潤伊、鈴木 宏子、丹野 清人 著
日本評論社

川崎臨海部の工業地帯に位置する町・桜本にある、字の読み書きが困難な在日コリアンや日系移民の女性たちの集う識字学級。学ぶことをあきらめなかったハルモニ(おばあさん)たちが、自らの手で自身の生をつづる。

2019/1./ 207p
978-4-535-58728-1
本体 ¥2,000+税



読売新聞 2019/04/28



エレクトリック・ステイト

シモン・ストーレンハーグ、山形 浩生 著
グラフィック社

1997 年、無人機ドローンによる戦争で荒廃したアメリカ。少女とおもちゃのロボットは、サンフランシスコ北のある家をめざし西へとドライブする。スウェーデンの鬼才が超現実的イラストレーションと共に描く、新しい世紀末。

2019/4./ 143p
978-4-7661-3229-8
本体 ¥2,800+税



読売新聞 2019/04/28



文豪ノ怪談ジュニア・セレクション<死>

内田 百間、林 芙美子、東 雅夫 編
内田 百間、林 芙美子、玉川 麻衣 著
汐文社

10代を対象にした文豪怪談アンソロジー。「死」をテーマに、西條八十「トミノの地獄」、川端康成「不死」などを収録する。総ての漢字にルビを付し、難解な言葉や言いまわしには詳しい注釈と鑑賞の手引きを施す。

2019.3./ 281p
978-4-8113-2485-2
本体 ¥1,800+税



読売新聞 2019/04/28



日本産蚊全種検索図鑑

津田 良夫 著
北隆館

蚊の全身を拡大した精密なカラー図版 76 枚と、日本産の蚊 124 種の同定に便利な「図解検索表」を収録。形態的特徴の同定ポイントを簡潔にまとめた全種の解説と、最新の分布図も記載。「蚊の観察と生態調査」の姉妹編。

2019.2./ 4p,76p,127p
978-4-8326-1006-4



読売新聞 2019/04/28



写真でつづるアミノクロウサギの暮らしぶり

勝 廣光 著
南方新社

奥深い森に棲み、夜行性のため、謎に包まれていたアミノクロウサギの暮らしぶり。繁殖、乳ねだり、授乳、父ウサギの育児参加、放尿、マーキング、泣き声発しなど、著者が初めて撮影に成功した写真の数々を収録する。

2019.3./ 107p
978-4-86124-392-9
本体 ¥1,800+税



読売新聞 2019/04/28



高田馬場アンダーグラウンド

本橋 信宏 著
駒草出版

手塚治虫、江戸川乱歩、「神田川」(かぐや姫)から、ビニ本、自販機本、ブルセラ、フードルまで、「伝説」はこの街で生まれた。「東京最後の異界鶯谷」の著者が、早稲田大学のお膝元・高田馬場を訪ね歩く。

2019.3./ 334p
978-4-909646-12-5
本体 ¥1,500+税



読売新聞 2019/04/28



母は焚き木です〜母守唄〜

国見 修二 著
玲風書房

「母は道草です レンゲ畑の道草です 編んだ首飾りがとぐろを巻いて春を見つめています」「母は柱の傷です 節句の子どもの成長を見守る柱の傷です もう誰も住む者は居ません」約 250 の 3 行詩を収録する。

2019.3./ 143p
978-4-947666-79-6
本体 ¥1,800+税



読売新聞 2019/04/28



日本の川を旅する〜カヌー単独行〜(mont-bell BOOKS)

野田 知佑 著
ネイチュアエンタープライズ

自分の腕を信頼して、毎日何度か危険を冒し、少々シンドクで、孤独で、海賊のように自由で、川下りの旅には、男の望むものがすべてある。野田知佑が北海道から九州まで、日本全国の 14 本の川をカヤックで旅した物語。

2019.3./ 311p
978-4-9908067-8-1
本体 ¥1,200+税



読売新聞 2019/04/28



西洋音楽史を聴く～バロック・クラシック・ロマン派の本質～(講談社学術文庫 2547)

前川 誠郎 著
講談社

バロック、クラシック(古典派)、ロマン派、後期ロマン派、国民楽派、20 世紀音楽…。それぞれの特徴はどこにあるのか。それらの音楽の目指したものは何なのか。美術史家が西洋音楽への愛と深い造詣を綴る。

2019:3./ 172p
978-4-06-515014-6

本体 ¥800+税



日本経済新聞 2019/04/06



古代日中関係史～倭の五王から遣唐使以降まで～(中公新書 2533)

河上 麻由子 著
中央公論新社

日本はアジア情勢を横目に、いかなる手段・方針・目的をもって中国と交渉したのか。倭の五王の時代から 5 回の遣隋使、15 回の遣唐使、さらには派遣後まで、500 年に及ぶ両国の交渉の軌跡を「常識」を覆しつつ実証的に描く。

2019:3./ 5p,280p

978-4-12-102533-3

本体 ¥880+税



日本経済新聞 2019/04/06



種の起源(HAYAKAWA POCKET MYSTERY BOOKS 1940)

チョン ユジョン 著
早川書房

25 歳の法学部生ユジンはその朝、血の匂いで目覚めた。自分が全身血だらけなのに気づいたユジンは床の赤い足跡をたどり、階段の下に広がる血の池に母の死体を発見する。時々記憶障害が起きる彼には前夜の記憶がなく…。

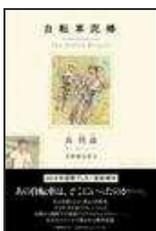
2019:2./ 368p

978-4-15-001940-2

本体 ¥1,600+税



日本経済新聞 2019/04/06



自転車泥棒

呉 明益、天野 健太郎 著
文藝春秋

20 年前の父の失踪とともに消えた自転車。その行方を追うち、いつしか台湾から戦時下の東南アジアのジャングルへ。家族の「愛と記憶」を壮大なスケールで描く長篇。

2018:11./ 438p

978-4-16-390925-7

本体 ¥2,100+税



日本経済新聞 2019/04/06



日中の非正規労働をめぐる現在

石井 知章 著
御茶の水書房

2017 年 5 月に明治大学で開催された「第 3 回日中雇用・労使関係シンポジウム-非正規時代の労働問題」の報告集。日中間で共通して抱えている非正規労働をめぐる諸問題を考え、将来に向けた処方箋とその打開策を模索する。

2018:11./ 11p,271p

978-4-275-02097-0

本体 ¥4,900+税



日本経済新聞 2019/04/06



大河の一滴 新版(幻冬舎新書ゴールド)

五木 寛之 著
幻冬舎

濁世には、濁世の生き方がある。究極のマイナス思考から出発したブッダや親鸞の教え、平壤で敗戦を迎えた著者自身の経験から辿りついた究極の人生論。「心の内戦」に疲れた現代人へ贈る、強く生き抜くためのメッセージ。

2009:9./ 294p

978-4-344-98140-9

本体 ¥840+税



日本経済新聞 2019/04/06



百貨店の進化

伊藤 元重 著

日本経済新聞出版社

百貨店に向けて「IT 企業になるべき」「B2C から C2B への転換」「外商・お帳場が重要」などの視点を提供。日本の経済社会の変化の特質を見極めた上で、将来の百貨店のあるべき姿を突き詰める。

日本経済新聞 2019/04/06

2019:1./ 252p

978-4-532-32256-4

本体 ¥1,800+税



世界卓球解説者が教える卓球観戦の極意(ポプラ新書 168)

宮崎 義仁 著

ポプラ社

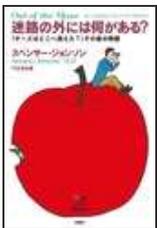
日本人選手の活躍、「世界卓球」の人気コンテンツ化、Tリーグの開幕...今、卓球が熱い! 世界卓球の解説でおなじみの著者が、テレビや会場で卓球を 10 倍面白く見する方法を伝授。卓球の基本とルールの変化についても解説する。

日本経済新聞 2019/04/06

2019:3./ 269p

978-4-591-16245-3

本体 ¥900+税



迷路の外には何がある?〜『チーズはどこへ消えた?』その後の物語〜

スペンサー・ジョンソン、門田 美鈴 著

扶桑社

チーズが消えた迷路に残ることを決めた小人のへム。そんなへムに大きな変化が訪れるが、受け入れることができなくて...。人生の変化に怖がらず適応するための「迷路脱出」法を伝授する。「チーズはどこへ消えた?」の続編。

日本経済新聞 2019/04/06

2019:2./ 102p

978-4-594-08165-2

本体 ¥1,000+税



進化する人体〜虫垂、体毛、親知らずはなぜあるのか〜

キャロル・アン・リンツラー、松浦 俊輔 著

柏書房

虫垂、体毛、尾骨、親知らず...。ダーウィンが「痕跡的」と呼んだ、人間にあっては必要がなく、退化しているとも見なされがちな組織・器官を、その後の医学や生物学の進展を踏まえて、あらためて評価する。

日本経済新聞 2019/04/06

2019:3./ 270p

978-4-7601-5092-2

本体 ¥2,200+税



ピケティ以後〜経済学と不平等のためのアジェンダ〜

マーシャル・スタインバウム 編

山形 浩生、守岡 桜、森本 正史 著

青土社

空前の大ブームを巻き起こした「21 世紀の資本」。その余波、功罪、真価を、経済学の最先端で活躍する論者が問い直す。ポール・クルーグマンら 24 人の論者が各視点から行なった考察に加え、ピケティ自身の応答を収録。

日本経済新聞 2019/04/06

2019:1./ 647p,4p

978-4-7917-7136-3

本体 ¥5,400+税



狼の群れはなぜ真剣に遊ぶのか

エリ・H.ラディンガー、シドラ房子 著

築地書館

高度な社会性を誇る野生オオカミ。彼らはどうやって群れのあり方を学び、世代をつなぐのか。野生オオカミの社会を数十年にわたって観察してきた著者が、現代のヒトの生活にも役立つオオカミの知恵を生き生きと描く。

日本経済新聞 2019/04/06

2019:2./ 263p 図版

24p

978-4-8067-1578-8

本体 ¥2,500+税





数学の贈り物

森田 真生 著
ミシマ社

独立研究者として、子の親として、一人の人間として、ひとつの生命体が渾身で放った随筆集。「捨身」「君が動くたび」「変身」など全 19 篇を収録する。『みんなのミシマガジン』連載等をもとに再構成。

2019:3./ 158p
978-4-909394-19-4
本体 ¥1,600+税



日本経済新聞 2019/04/06



吃音～伝えられないもどかしさ～

近藤 雄生 著
新潮社

頭の中に伝えたい言葉ははっきりとあるのに、相手に伝える前に詰まってしまう吃音。自らも悩んだ著者が、80 人以上に丹念に話を聞き、当事者の現実に迫るノンフィクション。『新潮 45』連載を改稿。

2019:1./ 222p
978-4-10-352261-4
本体 ¥1,500+税



日本経済新聞 2019/04/06、産経新聞 2019/04/21



父と私の桜尾通り商店街

今村 夏子 著
KADOKAWA

桜尾通り商店街のはずれでパン屋を営む父と、娘の「私」。コッペパンをサンドイッチにして並べはじめたことで、予想外の評判を呼んでしまい…。『文芸カドカワ』等掲載に書き下ろしを加え単行本化。

2019:2./ 235p
978-4-04-106341-5
本体 ¥1,400+税



日本経済新聞 2019/04/06、産経新聞 2019/04/21、朝日新聞 2019/04/27



未来の戦死に向き合うためのノート

井上 義和 著
創元社

反戦平和のために受け入れて議論すべきは、「過去と未来の戦死」。現代日本社会分析を織り込みながら、未来の戦死に「向き合う」ことから、「条件付きで受け入れる」ことを志向し、真に有効な戦争抑止の規範や倫理を構築する。

2019:2./ 286p
978-4-422-30072-6
本体 ¥1,600+税



日本経済新聞 2019/04/06、朝日新聞 2019/04/20



京都思想逍遙(ちくま新書 1388)

小倉 紀蔵 著
筑摩書房

源氏物語や古今和歌集に始まり、道元、世阿弥、頼山陽、鈴木大拙、三島由紀夫に至るまでのさまざまな言葉と交錯し、その<たましひ>と交響する。古都をめぐる古今の思考の足跡を辿る京都思想案内。

2019:2./ 295p
978-4-480-07208-5
本体 ¥900+税



日本経済新聞 2019/04/06、朝日新聞 2019/04/20



世界の核被災地で起きたこと

フレッド・ピアス、多賀谷 正子、黒河 星子、芝 瑞紀 著
原書房

福島、チェルノブイリ、スリーマイル島、広島…。環境ジャーナリストが世界各地の事故・被ばく現場、放射性廃棄物を抱える地域を取材。原爆以降の人類の核被災の歴史を一望し、いま世界で問われていることを明らかにする。

2019:2./ 343p
978-4-562-05639-2
本体 ¥2,500+税



日本経済新聞 2019/04/06、東京・中日新聞 2019/04/21



言葉の国イランと私～世界一お喋り上手な人たち～

岡田 恵美子 著
平凡社

古くからさまざまな人々と交流してきたイランでは、弁舌は大切な能力。半世紀以上前にイランへ留学したペルシア文学研究の第一人者が体験を綴ったエッセイ。ペルシアの箴言なども収録する。『河北新報』ほか掲載を書籍化。

2019:3./ 260p
978-4-582-83800-8
本体 ¥2,500+税

日本経済新聞 2019/04/06、読売新聞 2019/04/21



ロックで独立する方法(新潮文庫 い-42-2)

忌野 清志郎 著
新潮社

夢と現実には桁違いのギャップがある。その上学校も会社も<数字の奴隷>ばかりだ。そんな世界から<独立>したいなら、やりかたを教えよう。不世出のバンドマン・忌野清志郎が、真の自由を手に入れるための方法を明かす。

2019:4./ 249p 図版
16p
978-4-10-127312-9
本体 ¥630+税

日本経済新聞 2019/04/06、読売新聞 2019/04/28



さよなら未来～エディターズ・クロニクル 2010-2017～

若林 恵 著
岩波書店

人文知をコンパスに、勇気を胸に、地図なき未来によりよく迷え! 『WIRED』日本版・前編集長として、21世紀の最前線に触れてきた著者の思索と発信の軌跡を集成。『WIRED』ほか掲載を書籍化。

2018:4./ 511p
978-4-00-023070-4
本体 ¥2,200+税

日本経済新聞 2019/04/13



東アジア仏教史(岩波新書 新赤版 1758)

石井 公成 著
岩波書店

紀元前後、東アジアに伝えられた仏教。国を越えて活躍する僧侶たちや、訳経のみならず漢字文化圏で独自に創りだされた經典、政治・社会・文化との関わりに着目し、2000年にわたる歩みをダイナミックにとらえる。

2019:2./ 4p,256p,18p
978-4-00-431758-6
本体 ¥880+税

日本経済新聞 2019/04/13



僕とライカ～木村伊兵衛傑作選+エッセイ～(朝日文庫 き 24-1)

木村 伊兵衛 著
朝日新聞出版

「ライカの名人」とうたわれた巨匠・木村伊兵衛のエッセイ+写真集。代表作について当初を振り返るほか、ライカとの出会いと魅力、国内外の写真家との交友、撮影への思いを語る。土門拳、徳川夢声との対談も収録。

2019:3./ 302p
978-4-02-261958-7
本体 ¥1,000+税

日本経済新聞 2019/04/13



暗号通貨の経済学～21世紀の貨幣論～(講談社選書メチエ 692)

小島 寛之 著
講談社

ビットコイン、イーサリアム、リップル…。暗号通貨(仮想通貨)はいかにしてお金になるのか。「お金とは何か」から暗号通貨を捉え直し、ブロックチェーンの可能性をゲーム理論で追究する。

2019:1./ 187p
978-4-06-514495-4
本体 ¥1,500+税

日本経済新聞 2019/04/13



すごい言い訳!～二股疑惑をかけられた龍之介、税を誤魔化そうとした漱石～

中川 越 著
新潮社

浮気を疑われている、生活費が底をついた、原稿が書けない…。人生最大のピンチを筆一本で乗り切った、文豪たちの奇想天外、痛快無比、空前絶後のすごい言い訳を紹介。

2019/3./ 253p
978-4-10-352441-0
本体 ¥1,600+税



日本経済新聞 2019/04/13



キャッシュレス覇権戦争(NHK 出版新書 574)

岩田 昭男 著
NHK出版

IT・金融各社がしのぎを削り、米中巨大資本も虎視眈々と狙う、日本の 300 兆円消費市場を制するのは誰か? フィンテックがもたらす「信用格差社会」をいかに生き抜けばよいか? 激動の業界と暮らしの行方を読み解く。

2019/2./ 213p
978-4-14-088574-1
本体 ¥780+税



日本経済新聞 2019/04/13



漫画超進化論(河出文庫 い42-1)

石ノ森 章太郎 著
河出書房新社

石ノ森章太郎がホスト役となり、小池一夫、藤子不二雄 A、さいとう・たかを、手塚治虫が、マンガの過去・現在・未来について語る。昭和の終わりに巨匠たちが記録した歴史的対談集。エッセイマンガ「風のように…」も収録。

2019/4./ 293p
978-4-309-41679-3
本体 ¥740+税



日本経済新聞 2019/04/13



美と破壊の女優 京マチ子(筑摩選書 0170)

北村 匡平 著
筑摩書房

美と破壊性をあわせ持つ無二の映画女優、京マチ子。彼女の主演作が海外の名だたる映画祭で評価されたのはなぜか? 戦後多くの日本人に支持されたのはなぜか? 多彩な役を変幻自在に演じた女優・京マチ子の魅力を語り尽くす。

2019/2./ 286p
978-4-480-01677-5
本体 ¥1,600+税



日本経済新聞 2019/04/13



持たざる経営の虚実～日本企業の存亡を分ける正しい外部化・内部化とは?～

松岡 真宏 著
日本経済新聞出版社

これからの M&A は、事業・機能をどんなインセンティブで外部化・内部化しているのか、取引コストでとらえることを提案。業務や人材にまつわる課題を経済学的視点から、わかりやすく解説する。

2019/1./ 223p
978-4-532-32244-1
本体 ¥1,700+税



日本経済新聞 2019/04/13



人が自分をだます理由～自己欺瞞の進化心理学～

ケヴィン・シムラー、ロビン・ハンソン、大槻 敦子 著
原書房

儀式みたいにムダな会議、予防より高額医療、宗教の不可思議…。人間はなぜ「不効率な行動」をするのか? AI と経済学の研究者 2 人が、「戦略的不合理」の真相を進化心理学から解き明かす。

2019/2./ 390p,38p
978-4-562-05638-5
本体 ¥2,700+税



日本経済新聞 2019/04/13



南極ではたらく〜かあちゃん、調理隊員になる〜

渡貫 淳子 著
平凡社

平凡な主婦の料理と生き方を変えた1年4カ月の南極暮らし。一念発起して南極地域観測隊の調理隊員になった著者が、昭和基地での生活について綴る。天かすをリメイクした「悪魔のおにぎり」のレシピも掲載。

2019:1./ 175p
978-4-582-83795-7
本体 ¥1,400+税



日本経済新聞 2019/04/13



教皇フランシスコ〜南の世界から〜(平凡社新書 907)

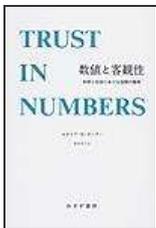
乗 浩子 著
平凡社

頻発する宗教がらみの紛争、政治動向を左右する教会、南世界で増大するキリスト教信者、パチカンに山積みする諸問題…。様々な国の人々と接し、平和の問題に取り組む南半球からの初めての教皇フランシスコの思想と行動を追う。

2019:3./ 287p
978-4-582-85907-2
本体 ¥920+税



日本経済新聞 2019/04/13



数値と客観性〜科学と社会における信頼の獲得〜

セオドア・M.ポーター、藤垣 裕子 著
みすず書房

なぜ「数字は正しい」のか。ギリスピーとクーンに学んだ科学史家が、19-20世紀イギリスの保険数理士などの史実に即し、社会が数値化される過程を徹底追求。ひるがえって自然科学にとっての数値化の意味を照射する。

2013:9./ 316p,74p
978-4-622-07781-7
本体 ¥6,000+税



日本経済新聞 2019/04/13



基地と聖地の沖縄史〜フェンスの内では祈る人びと〜

山内 健治 著
吉川弘文館

沖縄の米軍基地に含まれる、墓や信仰の対象となる聖地。人びとは現在も米軍の許可を得て、聖地で伝統行事を守り続ける。基地の内と外に存在する多くの神が、戦後いかに祀られてきたのかをフィールドワークをもとに描く。

2019:2./ 5p,230p
978-4-642-08345-4
本体 ¥2,500+税



日本経済新聞 2019/04/13



アナザーユートピア〜「オープンスペース」から都市を考える〜

槇 文彦、真壁 智治 著
NTT出版

都市において人間の回復は可能か？ 多彩な分野から示されたオープンスペースへの考察・試行・実践。槇文彦の論考「アナザーユートピア」への応答を介して、次代へつなぐ都市論を展開する。

2019:3./ 16p,260p
978-4-7571-6077-4
本体 ¥2,700+税



日本経済新聞 2019/04/13



日本の水産資源管理〜漁業衰退の真因と復活への道を探る〜

片野 歩、阪口 功 著
慶應義塾大学出版会

日本の漁獲量が60年前と同水準にまで後退する一方、世界の漁業は躍進を続けている。公的な規制や、漁業組合・業界団体による自主的な管理について語り、再び漁業が勢いを取り戻すための方策を提示する。

2019:2./ 14p,283p
978-4-7664-2580-2
本体 ¥2,500+税



日本経済新聞 2019/04/13



脚・ひれ・翼はなぜ進化したのか～生き物の「動き」と「形」の 40 億年～

マット・ウィルキンソン、神奈川 夏子 著
草思社

人間はどのように歩き、走るか。鳥はどのように飛び始めたか。なぜ動物の多くは左右対称なのか。植物がかたくなに動かない理由は…。這い、泳ぎ、歩き、飛ぶ-移動運動の物理から、生物の形の進化を読み解く。

2019:2./ 402p
978-4-7942-2380-7
本体 ¥2,800+税



日本経済新聞 2019/04/13



もうひとつの『異邦人』～ムルソー再捜査～(叢書《エル・アトラス》)

カメル・ダーウド、鶴戸 聡 著
水声社

世界でもっとも読まれたフランス小説、カミュの「異邦人」をアラブ人の視点から創造=創造的に捉え返す。ムルソーによって殺害されたアラブ人の弟が紡ぐ<もうひとつの物語>。

2019:1./ 201p
978-4-8010-0243-2
本体 ¥2,000+税



日本経済新聞 2019/04/13



チャイナ・イノベーション～データを制する者は世界を制する～

李 智慧 著
日経BP社

14 億人の中国「モバイル決済」市場を二分するアリババとテンセントは、どこへ向かうのか? 中国フィンテック研究の第一人者が、中国政府の戦略と政策などにも触れながら、中国型イノベーション勃興の謎を解き明かす。

2018:9./ 289p
978-4-8222-5587-9
本体 ¥1,800+税



日本経済新聞 2019/04/13



1%の富裕層のお金でみんなが幸せになる方法～実現可能な保証所得が社会を変える～

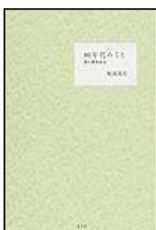
クリス・ヒューズ、櫻井 祐子 著
プレジデント社

フェイスブックの共同創業者として 20 代の若さで巨万の富を手にした著者は、「勝者総取り社会」の解決策として「保証所得」という考え方にたどり着いた。上位 1%の富裕層への増税で財源を賄う「保証所得」について解説する。

2019:2./ 253p
978-4-8334-2310-6
本体 ¥1,700+税



日本経済新聞 2019/04/13



90 年代のこと～僕の修業時代～

堀部 篤史 著
夏葉社

ヒップホップ、レンタルビデオ、タウン情報誌。スマートフォンもアマゾンも Google もなかったあの頃。僕はどこで何をしていたのだろう-。自身の半生を振り返りながら、90年代のことを綴る。

2018:11./ 139p
978-4-904816-30-1
本体 ¥1,600+税



日本経済新聞 2019/04/13



インフルエンザ・ハンター～ウイルスの秘密解明への 100 年～

ロバート・ウェブスター、田代 真人、河岡 義裕 著
岩波書店

スペインかぜインフルエンザ大流行から 100 年。インフルエンザ界のインディ・ジョーンズが、自身の研究人生を軸にインフルエンザ研究史を語る。輝かしい研究成果の陰には失敗もあり…。痛快エピソード満載の科学冒険物語。

2019:1./ 10p,210p
978-4-00-061313-2
本体 ¥2,000+税



日本経済新聞 2019/04/20

**三国志<1>(吉川英治歴史時代文庫)**

吉川 英治 著
講談社
日本経済新聞 2019/04/20

1989:4./ 511p
978-4-06-196533-1
本体 ¥800+税


**たそがれてゆく子さん**

伊藤 比呂美 著
中央公論新社
60代、親のなくなった日本は空虚で、娘たちのなくなった家からは若さが消えた。夫は死に、孤独にひたひたと向かっていく毎日は…。老いゆく詩人が「今」を綴る。『婦人公論』ほか掲載に加筆し単行本化。

2018:8./ 236p
978-4-12-005111-1
本体 ¥1,400+税



日本経済新聞 2019/04/20

**「昭和」という国家(NHK ブックス)**

司馬 遼太郎 著
NHK出版
司馬遼太郎はいつい昭とをどう見たのか。軍部官僚の「総帥権」という正義の体系が充満して国家や社会をふりまわしていた昭和という魔法の森の時代を、骨身に軋むような想いで解剖する。1998年刊の再刊。(ソフトカバー)

1999:3./ 315p
978-4-14-001856-9
本体 ¥1,160+税



日本経済新聞 2019/04/20

**「明治」という国家(NHK ブックス 1249)**

司馬 遼太郎 著
NHK出版
司馬遼太郎唯一の本格的明治国家論。歴史小説で日本人の明治観の基礎をつくった国民作家が、「格調の高い精神で支えられたリアリズムの時代」を巨細に語り、日本人のアイデンティティを剔出する。

2018:1./ 341p
978-4-14-091249-2
本体 ¥1,600+税



日本経済新聞 2019/04/20

**独裁の中国現代史～毛沢東から習近平まで～(文春新書 1206)**

楊 海英 著
文藝春秋
世界最大の独裁国家はいかに築かれたか? 中国システムの抱える致命的な欠点とは? 世界第2位の経済大国となりながら、いまだ一党独裁体制、少数民族弾圧といった矛盾を抱える中国の病巣を、毛沢東以来の歴史に探る。

2019:2./ 218p
978-4-16-661206-2
本体 ¥850+税



日本経済新聞 2019/04/20

**夢も見ずに眠った。**

絲山 秋子 著
河出書房新社
夫を熊谷に残し、札幌へ単身赴任を決めた沙和子。だが、大津で久しぶりに再会した夫に薔の兆候が。そして物語は函館、青梅、横浜、奥出雲へ…。土地の「物語」に導かれたふたりの人生を描いた長編小説。『文藝』連載を書籍化。

2019:1./ 299p
978-4-309-02771-5
本体 ¥1,750+税



日本経済新聞 2019/04/20



全ロック史

西崎 憲 著
人文書院

ロックミュージックはいかなる手段で、誰に抗い、何を訴えつづけてきたのか、一体なんのために。スコットズアイリッシュのアパラチア山脈への移住からはじまる、ロックミュージックの歴史をたどる。

日本経済新聞 2019/04/20

2019:2./ 510p
978-4-409-10041-7
本体 ¥3,800+税



両利きの経営～「二兎を追う」戦略が未来を切り拓く～

チャールズ・A.オライリー、マイケル・L.タッシュマン、入山 章栄、富山 和彦、渡部典子 著
東洋経済新報社

「知の探索」と「知の深化」を行えている企業ほど、イノベーションが起き、パフォーマンスが高くなる。成熟した大企業・中堅企業に向けた最強戦略「両利きの経営」理論を、豊富な事例をもとに解説する。

日本経済新聞 2019/04/20

2019:2./ 395p,16p
978-4-492-53408-3
本体 ¥2,400+税



サステナブル経営と資本市場

北川 哲雄、佐藤 淑子、松田 千恵子、加藤 晃 著
日本経済新聞出版社

優れた実績を残している企業は、ステークホルダーからも信頼される「サステナブルな経営」を行っている。「サステナビリティ」をキーワードに、理想的な長期投資家との関係を築く経営のあり方を提示する。

日本経済新聞 2019/04/20

2019:2./ 350p
978-4-532-32217-5
本体 ¥2,800+税



誰も農業を知らない～プロ農家だからわかる日本農業の未来～

有坪 民雄 著
原書房

机上の改革案が日本農業をつぶす！ 農家減少・高齢化の衝撃、「ビジネス感覚」農業の盲点、遺伝子組み換え作物の是非など、日本農業の現状と突破口を専業農家のリアルな視点から見る。ウェブ『JBPRESS』連載を書籍化。

日本経済新聞 2019/04/20

2018:12./ 6p,307p
978-4-562-05613-2
本体 ¥1,800+税



弟子・藤井聡太の学び方(PHP 文庫 す 24-1)

杉本 昌隆 著
PHP研究所

将棋に強くなるために要する「思考力」「集中力」「忍耐力」「想像力」「平常心」は、ビジネスパーソンにも必要な学び。藤井聡太という才能、兄弟弟子との交流などから「真に学ぶこと」とは何かを明らかにする。

日本経済新聞 2019/04/20

2019:4./ 301p
978-4-569-76889-2
本体 ¥760+税



平成史(平凡社新書 908)

保阪 正康 著
平凡社

「平成」は後世どのように総括されるか。政治の劣化、オウム真理教事件、天災と人災...。停滞や閉塞だけの時代だったのか。昭和との因果関係をふまえ、平成という時代の深層を読む。『こころ』連載を新書化。

日本経済新聞 2019/04/20

2019:3./ 231p
978-4-582-85908-9
本体 ¥820+税





私たちは洋楽とどう向き合ってきたのか～日本ポピュラー音楽の洋楽受容史～

南田 勝也 著
花伝社

「本場」に追いつき・追い越すことを目指してきた日本のポピュラー音楽は、「洋楽コンプレックス」から解放されたのか。史学、文学、社会学等の多様な視点から、日本人とポピュラー音楽の関係を分析する。

2019:3./ 308p
978-4-7634-0882-2
本体 ¥2,000+税



日本経済新聞 2019/04/20



あたかも壊れた世界～批評的、リアリズム的～

小泉 義之 著
青土社

生や狂気の問題を真正面から見据え、既存の価値観にしばられない思想を展開している著者が、その態度で「作品」と向き合うとき、いったい何が見えるのか。現代を代表する哲学者による初批評集。『ユリイカ』ほか掲載を書籍化。

2019:2./ 230p
978-4-7917-7146-2
本体 ¥2,000+税



日本経済新聞 2019/04/20



桜狂の譜～江戸の桜画世界～

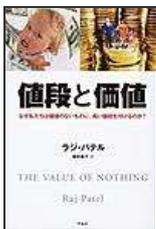
今橋 理子 著
青幻舎

「桜だけを描く」幻の絵師たちと桜花に憑かれた名大名-。三熊思孝、三熊露香、広瀬花隠、織田瑟瑟という三熊派の作品に加え、松平定信の手元で密かに遺された桜花図譜など、知られざる桜画約 140 点をオールカラーで収録。

2019:3./ 201p
978-4-86152-711-1
本体 ¥3,000+税



日本経済新聞 2019/04/20



値段と価値～なぜ私たちは価値のないものに、高い値段を付けるのか?～

ラジ・パテル、福井 昌子 著
作品社

私たちが支払う“価格”は正当なのか? 現在の経済システムでは“値段”と“価値”は比例せず、まったく異なる基準で設定されているという事実を解明し、そうした経済と社会のあり方を問い直す。

2019:2./ 253p
978-4-86182-636-8
本体 ¥2,600+税



日本経済新聞 2019/04/20



天皇はいかに受け継がれたか～天皇の身体と皇位継承～

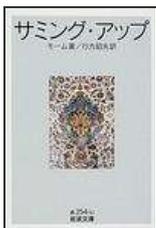
歴史学研究会 編
加藤 陽子 著
績文堂出版

歴史上、天皇の存在はいかに位置づけられ、継承の法式はどう変化し、天皇自身は政治や社会の変化にいかに対応しようとしたのかについて、通史的・世界史的観点から迫る。2018 年 4 月開催の東京大学でのシンポジウムの成果。

2019:2./
18p,312p,13p
978-4-88116-134-0
本体 ¥2,800+税



日本経済新聞 2019/04/20



サミング・アップ(岩波文庫)

モーム 著
岩波書店

日本経済新聞 2019/04/27

2007:2.
978-4-00-372501-6
本体 ¥970+税





伊勢神宮と齋宮(岩波新書 新赤版 1767)

西宮 秀紀 著
岩波書店

天皇の皇祖神・天照大神を祭る伊勢神宮と、神宮に奉仕する皇女が住まう齋宮。それらの起源を記紀神話のなかに探り、ヤマト朝廷の遠隔地に置かれた政治的理由、律令制国家の展開との関わりなどを明らかにする。

2019.3./ 11p,228p,9p
978-4-00-431767-8

本体 ¥840+税



日本経済新聞 2019/04/27



ふたつの日本～「移民国家」の建前と現実～(講談社現代新書 2516)

望月 優大 著
講談社

日本はすでに「移民国家」だ。止まらない人口減少の背後で、日本に暮らす外国人は増加の一途をたどっている。日本と移民との関係性を論じ、大きく変わる「国のかたち」の全体像をつかむ。50点以上の図表も収録。

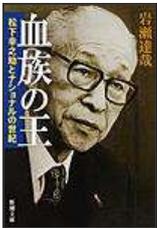
2019.3./ 222p

978-4-06-515110-5

本体 ¥840+税



日本経済新聞 2019/04/27



血族の王～松下幸之助とナショナルの世紀～(新潮文庫 い-57-2)

岩瀬 達哉 著
新潮社

妻と始めた家内工業を従業員 38 万人の一家電王国へと成長させた松下幸之助。激動の時代を背景に、数々の神話に彩られた「経営の神様」を、新資料と徹底取材で丸裸にした評伝。

2014.2./ 394p

978-4-10-131032-9

本体 ¥630+税



日本経済新聞 2019/04/27



死にがいを求めて生きているの

朝井 リョウ 著
中央公論新社

植物状態のまま眠る青年と見守る友人。美しい?がりに見えるふたりの“歪な真実”とは? 平坦で争いのない「平成」の日常を、朝井リョウが現代の闇と祈りを込めて描く。『小説 BOC』連載を加筆修正し単行本化。

2019.3./ 473p

978-4-12-005171-5

本体 ¥1,600+税



日本経済新聞 2019/04/27



地下道の少女(ハヤカワ・ミステリ文庫 HM 439-8)

アンデシュ・ルーススンド、ベリエ・ヘルストレム、ヘレンハルメ美穂 著
早川書房

真冬のストックホルム。バスに乗せられた外国人の子ども 43 人が置き去りにされる事件が発生。さらに病院の地下通路では、顔の肉を抉られた女性の死体が発見され…。地下道での生活を強いられる人々の悲劇を鮮烈に描く。

2019.2./ 533p

978-4-15-182158-5

本体 ¥1,160+税



日本経済新聞 2019/04/27



幻想の経済成長

デイヴィッド・ピリング、仲 達志 著
早川書房

GDPを拡大し続ければ私達は幸せになれるのか? 世界 5 大陸で取材した『フィナンシャル・タイムズ』の元東京支局長が、各国で見聞きした豊富な事例から「成長至上主義」の限界を明かし、そこから脱却するための道筋を示す。

2019.3./ 334p

978-4-15-209845-0

本体 ¥2,100+税



日本経済新聞 2019/04/27



日本現代怪異事典

朝里 樹 著
笠間書院

こっくりさん、口裂け女、トイレの花子さん…。戦後から 2000 年前後にネット上に登場する怪異まで、日本を舞台に語られた 1000 種類以上の怪異を紹介する。類似怪異、出没場所、都道府県別などの索引付き。

日本経済新聞 2019/04/27

2018:1./ 500p
978-4-305-70859-5
本体 ¥2,200+税



地磁気逆転～地球最大の謎に挑んだ科学者たち、そして何が起こるのか～

アランナ・ミッチェル、熊谷 玲美 著
光文社

N 極と S 極が入れ替わるとき人類未経験の危機が! 地磁気逆転の謎に挑んだ歴史上の科学者たちの業績を追いながら、磁力とは何か、なぜ地磁気逆転が起こるのか、来る危機にいかにも備えるべきかを考察する。「チバニアン」も解説。

日本経済新聞 2019/04/27

2019:2./ 346p
978-4-334-96226-5
本体 ¥2,500+税



神話学入門(ちくま学芸文庫 オ 28-1)

大林 太良 著
筑摩書房

神話とその背景としての民族・文化・社会、世界像や儀礼との関係を解き明かす神話学の入門書。ヨーロッパで発達した神話学研究的系譜を丁寧に辿りつつ、定義と分類、様々な解釈を詳述し、重要な側面を余すところなく紹介する。

日本経済新聞 2019/04/27

2019:3./ 226p
978-4-480-09918-1
本体 ¥1,000+税



世界経済チキンゲームの罠(日経プレミアシリーズ 397)

滝田 洋一 著
日本経済新聞出版社

神経戦続く米中貿易摩擦、遠心力強まる EU、新たな冷戦と景気減速…。国際情勢は当事者たちが振り上げた拳を下ろせない「チキンゲーム」の様相を呈している。さまざまな要素が絡み合い、混迷の度を強める世界を読み解く。

日本経済新聞 2019/04/27

2019:3./ 243p
978-4-532-26397-3
本体 ¥850+税



道をひらく<続>

松下 幸之助 著
PHP研究所
日本経済新聞 2019/04/27

1988:1./ 263p
978-4-569-51318-8
本体 ¥870+税



いつも歌があった

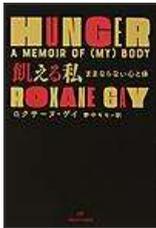
南 こうせつ 著
ヤマハミュージックメディア

2019 年にデビュー 50 周年を迎える南こうせつ。70 歳の今なお年間 50 本以上のコンサートを行っている活力の原点は何か? これまでの音楽活動、現在の暮らし、人生を振り返り、明日への活力を解き明かす。

日本経済新聞 2019/04/27

2019:3./ 227p
978-4-636-96625-1
本体 ¥2,000+税





飢える私～ままならない心と体～

ロクサーヌ・ゲイ、野中 モモ 著
亜紀書房

あの日の私を守るために食べてしまう。そんな自分を愛したいけど、愛せない。12歳でレイプされ引き裂かれた魂は、飽くなき「食欲」へと向かった。少女時代から作家になっても続く苦悩と辛酸の日々を綴った回顧録。

日本経済新聞 2019/04/27

2019:2./ 286p
978-4-7505-1577-9
本体 ¥1,900+税



やきものの旅 中国・台湾

小山富士夫 著
芸艸堂

日本経済新聞 2019/04/27

1980:1./ 263p
978-4-7538-0021-6
本体 ¥2,000+税



なぜ女性管理職は少ないのか～女性の昇進を妨げる要因を考える～(青弓社ライブラリー 96)

日本女子大学現代女性キャリア研究所 編
大沢 真知子 著
青弓社

女性が管理職になれない・なりたがらない要因とは。男性中心のリーダーシップ像や女性が抱える心理的な葛藤、職場に根強い差別等をインタビューや統計から明らかにし、公平な評価制度や新たなリーダーシップ像の確立を訴える。

日本経済新聞 2019/04/27

2019:3./ 207p
978-4-7872-3450-6
本体 ¥1,600+税



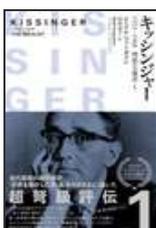
第6の大絶滅は起こるのか～生物大絶滅の科学と人類の未来～

ピーター・ブラネン、西田 美緒子 著
築地書館

地球誕生以来、5回、地球上のほぼ全ての生物が死滅した。なぜ生物大量絶滅は起きたのか? 科学ジャーナリストが、様々な分野の研究者に会い、現地調査に加わった経験をもとに、大量絶滅時の地球環境の変化を生き生きと描く。

日本経済新聞 2019/04/27

2019:2./ 380p
978-4-8067-1577-1
本体 ¥3,200+税



キッシンジャー～1923-1968理想主義者～<1>

ニール・ファーガソン、村井 章子 著
日経BP社

不世出の学者・政治家キッシンジャーの思想と行動の原点となる前半生を、私信・メモを含む膨大な資料から浮き彫りにする。1 は、米国に移住して第二次世界大戦末期に従軍、復員後ハーバード大学で学び頭角を現すまでを収録。

日本経済新聞 2019/04/27

2019:2./ 582p
978-4-8222-5594-7
本体 ¥4,200+税



キッシンジャー～1923-1968理想主義者～<2>

ニール・ファーガソン、村井 章子 著
日経BP社

不世出の学者・政治家キッシンジャーの思想と行動の原点となる前半生を、私信・メモを含む膨大な資料から浮き彫りにする。2 は、ベトナム戦争の秘密和平交渉に関与、国家安全保障問題担当大統領補佐官に指名されるまでを収録。

日本経済新聞 2019/04/27

2019:2./ 710p
978-4-8222-5595-4
本体 ¥4,500+税





WTF 経済～絶望または驚異の未来と我々の選択～

Tim O'Reilly、山形 浩生 著
オライリー・ジャパン

データ、アルゴリズム、巨大プラットフォームが支配する世界で「人間中心の未来」を作るには？ 著者自身が深く関わったオープンソース・ソフトウェアを中心にテクノロジーの発展を振り返り、次世代ビジネスの戦略を伝授する。

2019:2./ 553p
978-4-87311-859-8
本体 ¥2,400+税



日本経済新聞 2019/04/27



「抗日」中国の起源～五四運動と日本～(筑摩選書 0171)

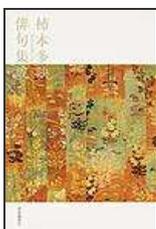
武藤 秀太郎 著
筑摩書房

2019 年に 100 周年を迎える「五四運動」。中国を規定するこの歴史的事件を、運動の担い手をうみだした中国高等教育の成り立ちと日本との関連にスポットをあてて分析。中国の複雑な対日感情の構造を透写する。

2019:2./ 289p,10p
978-4-480-01679-9
本体 ¥1,700+税



日本経済新聞 2019/04/27、読売新聞 2019/04/28



柿本多映俳句集成

柿本 多映 著
深夜叢書社

「夢谷」「蝶日」「花石」「仮生」といった柿本多映の全既刊句集を収録。句集未収録作品は「拾遺」として制作年順にまとめる。年譜、句集解題、初句索引等も掲載。

2019:3./ 507p
978-4-88032-450-0
本体 ¥5,000+税



毎日新聞 2019/04/01



鬼憑き十兵衛

大塚 巳愛 著
新潮社

父の仇を討つ。それが俺のすべてだ。復讐に燃える若武者と、彼に取り憑いた超絶美形の「鬼」。立ち上がるのは、人外の妖。仇を求めて流離う、奇妙な 2 人の道行きや、いかに…。

2019:3./ 286p
978-4-10-352411-3
本体 ¥1,500+税



毎日新聞 2019/04/06



桜と日章(宝島社文庫 C か-9-3)

神家 正成 著
宝島社

千葉県警の警備部長が誘拐された。柏警察署に特別捜査本部が設置されるものの、自衛隊から出向中の副署長・植木は事件から閉め出されてしまう。自衛隊と警察との水面下での確執が表面化する中、植木は独自に事件を追う！

2019:3./ 413p
978-4-8002-9348-0
本体 ¥800+税



毎日新聞 2019/04/06



物流危機は終わらない～暮らしを支える労働のゆくえ～(岩波新書 新赤版 1753)

首藤 若菜 著
岩波書店

ネットで注文した商品が、送料無料で翌日配達される。だが、その荷物を運ぶドライバーは、過酷な労働を強いられている。私たちの暮らしや経済を支える物流。それを維持するためのコストは誰が負担すべきなのかを考える。

2018:12./ 11p,232p
978-4-00-431753-1
本体 ¥820+税



毎日新聞 2019/04/07



この百年の小説～人生と文学と～(講談社文芸文庫 な J3)

中村 真一郎 著
講談社

博覧強記の詩人・小説家・批評家が遺した、ユーモアとエスプリ、イロニーに満ちた日本近現代文学案内。漱石、谷崎、芥川、三島、大江他、百余の作品を取り上げ、「人生と文学」を巡り読み解く。

2019:1./ 317p
978-4-06-514322-3
本体 ¥1,900+税



毎日新聞 2019/04/07

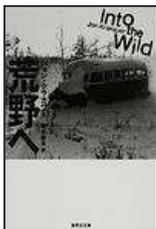


最後の冒険家(集英社文庫 い 65-2)

石川 直樹 著
集英社

毎日新聞 2019/04/07

2011:9./ 214p
978-4-08-746742-0
本体 ¥680+税



荒野へ(集英社文庫)

ジョン・クラカワー 著
集英社

毎日新聞 2019/04/07

2007:3./ 334p
978-4-08-760524-2
本体 ¥670+税



けものたちは故郷をめざす(新潮文庫)

安部公房 著
新潮社

毎日新聞 2019/04/07

1982:6./ 249p
978-4-10-112103-1
本体 ¥550+税



檀(新潮文庫)

沢木 耕太郎 著
新潮社

毎日新聞 2019/04/07

2000:7./ 284p
978-4-10-123513-4
本体 ¥520+税



ペンギン・ブックスが選んだ日本の名短篇 29

ジェイ・ルービン 編
新潮社

英国の出版社「ペンギン・ブックス」が選んだ近代・現代日本の短編小説集。永井荷風「監獄署の裏」や三島由紀夫「憂国」から、現代の若手作家まで、29 の作品を収録。村上春樹の序文も掲載。

2019:2./ 489p
978-4-10-353436-5
本体 ¥3,600+税



毎日新聞 2019/04/07



ツアーリと大衆～近代ロシアの読書の社会史～

巽 由樹子 著
東京大学出版会

1870 年代以降に普及したロシアの絵入り雑誌を享受した読者とは誰か。新しいメディアがどのような新しい主体と文化を生み出し、それが旧来の秩序にいかに関与を与えたかを明らかにする。

2019:1./ 4p,196p,28p
978-4-13-026161-6
本体 ¥4,800+税



毎日新聞 2019/04/07



「古今和歌集」の創造力(NHK ブックス 1254)

鈴木 宏子 著
NHK出版

なぜ梅には鶯なのか。なぜ秋は悲しいのか。「古今和歌集」で発展を遂げた修辞技巧と、代表的撰者・紀貫之の序文や配列意図に注目し、表現論、編集論というアプローチで、いかに日本の美意識の<型>を完成させたかを探る。

2018:12./ 318p
978-4-14-091254-6
本体 ¥1,500+税



毎日新聞 2019/04/07



考える教室～大人のための哲学入門～(教養・文化シリーズ)

若松 英輔 著
NHK出版

ソクラテス、プラトン、ルネ・デカルト、ハンナ・アレント、吉本隆明…。時代とよつに組んで生きた哲学者・思想家たちの言葉を読み解きながら、自分にとって哲学とは何かを考える。

2019:3./ 111p
978-4-14-407241-3
本体 ¥670+税



毎日新聞 2019/04/07



ニール・ヤング回想

ニール・ヤング、清水 由貴子 著
河出書房新社

いかにしてニール・ヤングは「ニール・ヤング」となったのか。ロック界の巨匠が、自らの音楽人生、バンド、アルバム、曲、家族、車、楽器、スタジオ、政治、社会等について綴る。ニール自身によるカラーイラスト 40 点も収録。

2019:1./ 463p
978-4-309-92162-4
本体 ¥4,800+税



毎日新聞 2019/04/07



仮面の道(ちくま学芸文庫 レ 6-2)

クロード・レヴィ=ストロース 著
筑摩書房

アメリカ北西海岸の諸部族が伝承する仮面。構造人類学の視点から、仮面の裏に折り重なった意味内容とコードの体系を読解し、個人の主観を人類の共有する幻想へと?ぐ。原書最新版で増補された第二部「三つの小さな旅」も収録。

2018:12./ 396p
978-4-480-09647-0
本体 ¥1,400+税



毎日新聞 2019/04/07



山本五十六の戦争

保阪 正康 著
毎日新聞出版

日米開戦回避の志に反して真珠湾作戦を指揮し、早期講和を念じながら、ミッドウェー海戦に臨んだ山本五十六。「悲劇の提督」の生涯を現代史のなかに刻む評伝。『サンデー毎日』連載に加筆し単行本化。

2018:12./ 237p
978-4-620-32556-9
本体 ¥1,600+税



毎日新聞 2019/04/07



わたしが「軽さ」を取り戻すまで～“シャルリ・エブド”を生き残って～

カトリーヌ・ムリス、大西 愛子 著
花伝社

シャルリ・エブド襲撃事件生存者による、喪失と回復の記録。12 人の同僚を失うなか、偶然によって生き残った著者が、深い喪失感に苛まれながらも、美に触れることによって自分を少しずつ取り戻していく様子を漫画で描く。

2019:2./ 140p
978-4-7634-0875-4
本体 ¥1,800+税



毎日新聞 2019/04/07



現代日本政治講義～自民党政権を中心として～

藪野 祐三 著
北海道大学出版会

自民党はなぜ長期政権を維持できたのか。政権交代、政党、政策、有権者、外交という切り口から、機能的・構造的に明らかにする。熊野直樹による解説「藪野政治学の特徴とその魅力」も収録。

2019:2./ 18p,216p,7p
978-4-8329-6847-9

本体 ¥2,400+税



毎日新聞 2019/04/07



論理哲学論考(岩波文庫)

ウィットゲンシュタイン 著
岩波書店

毎日新聞 2019/04/14

2003:8./ 240p

978-4-00-336891-6

本体 ¥780+税



木曜日の子ども

重松 清 著
KADOKAWA

再婚した妻の連れ子がひどいじめにあい転校した先は、7年前、給食への毒物混入で無差別殺人事件が起きた学校だった。やがて静かなニュータウンで次々と怪死事件が起こり…。『野性時代』連載を大幅改稿し書籍化。

2019:1./ 419p

978-4-04-102832-2

本体 ¥1,700+税



毎日新聞 2019/04/14



日本銀行「失敗の本質」(小学館新書 343)

原 真人 著
小学館

黒田日銀はなぜ「誤算」の連続なのか。その疑問を解くヒントは、かつての日本軍の失敗研究にあった。『朝日新聞』編集委員が、アベノミクスと異次元緩和の6年間の取材を振り返りつつ、政権と日銀の「失敗の本質」を考える。

2019:4./ 253p

978-4-09-825343-2

本体 ¥840+税



毎日新聞 2019/04/14



失敗の本質～日本軍の組織論的研究～(中公文庫)

戸部 良一 著
中央公論新社

大東亜戦争での諸作戦の失敗を、組織としての日本軍の失敗ととらえ直し、これを現代の組織一般にとっての教訓とした戦史の初めての社会科学的分析。

2000:4./ 413p

978-4-12-201833-4

本体 ¥762+税



毎日新聞 2019/04/14



ハンニバル戦争(中公文庫 さ49-3)

佐藤 賢一 著
中央公論新社

紀元前三世紀。ローマ帝国の歴史の中で史上最大の敵とされた男・ハンニバルが、復讐の名の下に立ちあがる。予測不可能な強敵を前に、ローマの貴公子・スキピオは愛する家族と祖国を守り抜けるか?

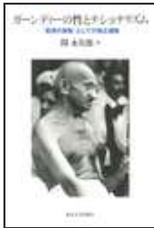
2019:1./ 525p

978-4-12-206678-6

本体 ¥920+税



毎日新聞 2019/04/14



ガンディーの性とナショナリズム～「真理の実験」としての独立運動～

間 永次郎 著
東京大学出版会

ガンディーが率いたインド独立運動とそれを支えるナショナリズム思想の形成に、ガンディーの性(セクシュアリティ)が主題化された「ブラフマチャリヤ」という性欲統制の実験がいかなる影響を与えたのかを論じる。

2019.2./ 8p,390p
978-4-13-056119-8
本体 ¥8,800+税



毎日新聞 2019/04/14



Xと云う患者～龍之介幻想～

デイヴィッド・ピース、黒原 敏行 著
文藝春秋

イギリスの鬼才が芥川文学をコラーージュし、マッシュアップし、リミックスして生み出した幻想譚を、精妙に美しい日本語に移し替えた決定的翻訳。読む者をゆるやかに芥川の文学的狂気へといざなう一冊。

2019.3./ 367p
978-4-16-391001-7
本体 ¥2,400+税



毎日新聞 2019/04/14



なぜ必敗の戦争を始めたのか～陸軍エリート将校反省会議～(文春新書 1204)

半藤 一利 編
文藝春秋

なぜ日本は無謀といわれるアメリカとの戦争に突入したのか。陸軍中枢にいたエリートたちが真実を語り尽くす。雑誌『偕行』に掲載された陸軍参謀たちによる幻の座談会を整理し、半藤一利による解説とともに収録する。

2019.2./ 317p
978-4-16-661204-8
本体 ¥880+税



毎日新聞 2019/04/14



上方らくごの舞台裏(ちくま新書 1375)

小佐田 定雄 著
筑摩書房

六代目松鶴、三代目春團治、五代目文枝をはじめとする、彼岸に渡ってしまった上方らくごの師匠たちの演題を厳選。舞台裏話から芸や人の魅力、お囃子さんまで語り尽くす。歌舞伎になった新作落語「山名屋浦里」の裏話も掲載。

2018.12./ 318p
978-4-480-07185-9
本体 ¥940+税



毎日新聞 2019/04/14



天皇を救った男笠井重治

七尾 和晃 著
東洋経済新報社

日米開戦回避工作、天皇の戦犯訴追回避、ニクソン電撃訪中。歴史的事件の背後で「密使」を務めた謎の人物の正体とは? 戦後史が動くときに必ずいた男、笠井重治の波乱の生涯を描く本格評伝。

2018.12./ 215p
978-4-492-06210-4
本体 ¥1,600+税



毎日新聞 2019/04/14



フェルメールと天才科学者～17世紀オランダの「光と視覚」の革命～

ローラ・J.スナイダー、黒木 章人 著
原書房

フェルメールの「天文学者」「地理学者」のモデルと言われる科学者レーウエンフック。当時の資料からふたりの生涯と関係性を克明にし、レンズの製造法から視覚理論の歴史、フェルメールが用いた遠近法と光学を詳細に解説する。

2019.2./ 435p 図版
16p
978-4-562-05634-7
本体 ¥3,800+税



毎日新聞 2019/04/14



志らくの言いたい放題(PHP 文庫 た 110-1)

立川 志らく 著
PHP研究所

寄席で修業できなからうが、昔の落語ファンから罵声を浴びようが、談志の価値観や生き方を信じて精進を重ねてきたアウトロー集団・立川流。「我こそが談志イズムの継承者」と自負する著者が、落語立川流とはなんぞやを語る。

2018:1./ 284p
978-4-569-76801-4
本体 ¥720+税



毎日新聞 2019/04/14



日記で読む日本史<18> クララ・ホイットニーが綴った明治の日々

佐野 真由子 著
臨川書店

日記のもつ多面的な魅力を解き明かし、数多の日記が綴ってきた日本文化の深層に迫る。18 は、商法教師の父や家族とともに来日した少女、クララ・ホイットニーの日記を取り上げ、その暮らしと、明治の空気をリアルに再現する。

2019:2./ 290p
978-4-653-04358-4
本体 ¥3,300+税



毎日新聞 2019/04/14



西遊記～妖怪たちのカーニバル～(世界を読み解く一冊の本)

武田 雅哉 著
慶應義塾大学出版会

映画やマンガにリメイクされつづける「西遊記」は、「童話」や「おとぎばなし」や「児童文学」などではない。長大な物語のあらすじを追いながら、中国の誇る<神怪小説>のなりたちと伝播を、妖怪たちの目線から語りつくす。

2019:2./ 4p,241p
978-4-7664-2556-7
本体 ¥2,000+税



毎日新聞 2019/04/14



圓朝

奥山 景布子 著
中央公論新社

江戸と明治を駆け抜けて、芸能の怪物となった三遊亭圓朝。だがその実人生は、「まさか」の連続。師匠に嵌められ、弟子は借財まみれ、放蕩息子は掏摸で逮捕…。修業時代から晩年まで、不屈の魂に燃えた<大圓朝>の一代記。

2019:2./ 323p
978-4-12-005165-4
本体 ¥1,800+税



毎日新聞 2019/04/14、東京・中日新聞 2019/04/21



天球儀～句集～(小熊座叢書 第 107 篇)

春日 石彦 著
朔出版

うすらひに光?ぐ音ありにけり ラムネ瓶振る隠沼に似たるひと 一宇宙一生命体虫の闇 65 歳の定年退職を機に、これまでの 20 年余りで詠んだ俳句作品から 350 句を選び、3 つに分けて収録した第 1 句集。

2019:3./ 196p
978-4-908978-22-7
本体 ¥2,200+税



毎日新聞 2019/04/16



候補者ジェレミー・コービン～「反貧困」から首相への道～

アレックス・ナンズ、藤澤 みどり、荒井 雅子、坂野 正明 著
岩波書店

万年ヒラ議員から、まさかのイギリス労働党党首へ。ジェレミー・コービンを押し上げたのは、反緊縮のうねりのなか生まれた、SNS を駆使する新しい市民参加型政治運動だった。「コービン運動」の軌跡を追う。

2019:4./ 8p,413p,7p
978-4-00-022963-0
本体 ¥3,700+税



毎日新聞 2019/04/21



傲慢と善良

辻村 深月 著
朝日新聞出版

進学、就職、恋愛、友情、結婚…。あらゆる選択を決断してきたのは本当に「私自身」なのだろうか？ 忽然と姿を消した婚約者の居場所を探すため、西澤架は、彼女の過去と向き合うことになるが…。『週刊朝日』連載を単行本化。

毎日新聞 2019/04/21

2019:3./ 414p
978-4-02-251595-7
本体 ¥1,600+税



論語と算盤(角川ソフィア文庫)

渋沢 栄一 著
角川学芸出版

マスコミ各誌で話題沸騰!愛され続けるロングセラーの文庫版

毎日新聞 2019/04/21

2008:10./ 318p
978-4-04-409001-2
本体 ¥760+税



戦艦大和ノ最期(講談社文芸文庫)

吉田 満 著
講談社

昭和 20 年 3 月 29 日、世界最大の不沈戦艦と誇った「大和」は、必敗の作戦へと呉軍港を出港した。戦後半世紀、いよいよ光芒を放つ名作の「決定稿」。

毎日新聞 2019/04/21

1994:8./ 201p
978-4-06-196287-3
本体 ¥940+税



オカルティズム〜非理性のヨーロッパ〜(講談社選書メチエ 690)

大野 英士 著
講談社

タロット、黒ミサ、ユダヤ陰謀論…。古代から現代まで、人間の歴史と共にあるオカルトだが、「魔女狩り」の終焉で近代が始まり、その意味合いは大きく変貌する。世界観の変遷を闇の側からたどる、オカルティズム思想史。

毎日新聞 2019/04/21

2018:12./ 317p
978-4-06-514260-8
本体 ¥1,900+税



壺中に天あり獣あり

金子 薫 著
講談社

無限の迷宮を彷徨い続ける青年・光。ある時、迷宮の中にホテルが建っているのを発見した光は、その支配人となり、客を呼び込むポスターを貼るため、再び迷宮へと足を踏み入れ…。『群像』掲載を単行本化。

毎日新聞 2019/04/21

2019:2./ 189p
978-4-06-514766-5
本体 ¥1,600+税



メディアは誰のものか(集英社新書 0969)

池上 彰、青木 理、津田 大介、金平 茂紀、林 香里、平 和博 著
集英社

新聞、テレビ、ネット…。「現場」で何が起きているのか。最前線で活躍する識者らが、メディア不信の病巣の本質を探り、それらを乗り越えていく可能性を探る。連続講座「本と新聞の大学」第 6 期を書籍化した、白熱の講義録。

毎日新聞 2019/04/21

2019:3./ 251p
978-4-08-721069-9
本体 ¥860+税





承久の乱～真の「武者の世」を告げる大乱～(中公新書 2517)

坂井 孝一 著
中央公論新社

後鳥羽上皇は無謀にも鎌倉幕府打倒を企て、返り討ちにあったのか? 公武の力関係を劇的に変え、中世社会のあり方を決定づけた大事件「承久の乱」を、理解しやすいよう現代社会と比較しながら描き出す。

2018.12./ 6p,277p
978-4-12-102517-3
本体 ¥900+税



毎日新聞 2019/04/21



慟哭の海～戦艦大和死闘の記録～(中公文庫 の16-1)

能村 次郎 著
中央公論新社

最新鋭の技術をもって建造された「世界最強」の帝国海軍戦艦は、二度目の出撃であっけなく撃沈された。「水上特攻」に従事した人々は、どのような思いを抱いて死んでいったのか。生還した大和副長が生々しく綴った手記。

2017.4./ 234p
978-4-12-206400-3
本体 ¥900+税



毎日新聞 2019/04/21



飛族

村田 喜代子 著
文藝春秋

朝鮮との国境近くの島で、老女が2人だけで暮らしている。ウメ子の母親で92歳のイオと、その海女友達で88歳のソメ子だ。彼女たちの厳しい海辺暮らしと、シンプルに生きようとする姿を描く。『文學界』連載を単行本化。

2019.3./ 212p
978-4-16-390989-9
本体 ¥2,000+税



毎日新聞 2019/04/21



承久の乱～日本史のターニングポイント～(文春新書 1199)

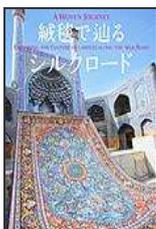
本郷 和人 著
文藝春秋

戦いの本質は「在地領主 vs. 朝廷支配」。承久の乱こそ天下分け目の合戦だ! 北条義時は、希代のカリスマ後鳥羽上皇になぜ勝てたのか。650年続く「武士の天下」を生み出した騒乱を、鎌倉時代研究の第一人者が読み解く。

2019.1./ 218p
978-4-16-661199-7
本体 ¥820+税



毎日新聞 2019/04/21



絨毯で辿るシルクロード

世界文化社

イスラームの宗教観、世界観、美意識が凝縮した手織り絨毯は、シルクロードの文化そのもの。ペルシャの文化が日本の生活文化に影響を及ぼした道筋を絨毯で辿る。ペルシャの絨毯工房、美術館の絨毯の名品も紹介する。

2018.11./ 159p
978-4-418-18253-4
本体 ¥7,000+税



毎日新聞 2019/04/21



わくわく!探検れきはく日本の歴史<1> 先史・古代

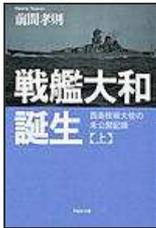
国立歴史民俗博物館 編
吉川弘文館

国立歴史民俗博物館が小中学生に向けて日本の歴史と文化をやさしく解説。展示をもとにしたストーリー性重視の構成で、ジオラマや復元模型などの図版も満載。1 は、日本列島に人類が住み始めてから日本国誕生までをたどる。

2019.4./ 74p
978-4-642-06821-5
本体 ¥1,000+税



毎日新聞 2019/04/21



戦艦大和誕生<上巻> 西島技術大佐の未公開記録(草思社文庫 ま 2-3)

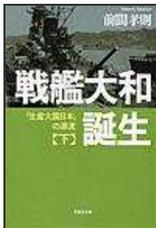
前間 孝則 著
草思社

天才的技術者の一千枚を越える未公開手記により、初めて明らかにされた超大型戦艦建造の偉業秘話。戦後日本の経済成長の元となった、合理化或いは自動化による生産性の向上という考えを実践した先駆者の工法とは…。

2017:6./ 467p
978-4-7942-2281-7
本体 ¥1,200+税



毎日新聞 2019/04/21



戦艦大和誕生<下巻> 「生産大国日本」の源流(草思社文庫 ま 2-4)

前間 孝則 著
草思社

全てが不足する戦時下で苦闘する技術者。しかし、そこから戦後の繁栄をもたらす日本の生産方式を創りだした。戦艦「大和」の船殻主任として活躍し、戦後は沈黙を守った西島亮二の手記から見る日本造船業。

2017:6./ 472p
978-4-7942-2282-4
本体 ¥1,200+税



毎日新聞 2019/04/21



北斎の肉筆～スミソニアン協会フリーア美術館コレクション～

葛飾 北斎、ジェームス・ユーラック、フランク・フェルテンズ 著
青幻舎

葛飾北斎の肉筆画コレクションとして世界最大の質と量を誇るスミソニアン協会フリーア美術館のコレクションから、肉筆と素描の名品約 100 点を厳選。部分図説も駆使した、北斎の筆の秘密を堪能できる一冊。折り込み頁あり。

2018:12./ 151p
978-4-86152-709-8
本体 ¥2,600+税



毎日新聞 2019/04/21



樹の人～瀧口政満作品集～

瀧口 政満 著
北海道新聞社

和人でありながらアイヌの心と響き合う独自の作品を作り続けた孤高の木彫作家・瀧口政満の作品集。シマフクロウや尾白鷺をはじめとする北の動物や、風と対話する少女像など、その全貌を明らかにする。評伝や解説、年譜も収録。

2019:3./ 207p
978-4-89453-943-3
本体 ¥3,000+税



毎日新聞 2019/04/21



バイリンガル・エキサイトメント

リービ英雄 著
岩波書店

人はいかに異言語に身をさらし、異言語を旅することができるのか。母語ではない言語に触発された「多言語の高揚感(バイリンガル・エキサイトメント)」に導かれて、関連科、多和田葉子、温又柔と語りあった新しい日本文学論。

2019:3./ 7p,220p
978-4-00-061325-5
本体 ¥2,000+税



毎日新聞 2019/04/28



近代日本思想案内(岩波文庫)

鹿野 政直 著
岩波書店

毎日新聞 2019/04/28

1999:5.
978-4-00-350018-7
本体 ¥1,010+税





父権制の崩壊あるいは指導者はもう来ない(朝日新書 714)

橋本 治 著
朝日新聞出版

都知事選の変遷、ハリウッド映画の分析、政治家のスキャンダル…。男たちの論理で作られた世界を歴史的に紐解きながら、組織、女の役割等、これまでの「当たり前」が失効する世界の到来を説く。『小説トリッパー』連載を改題。

2019:4./ 235p
978-4-02-295011-6

本体 ¥810+税



毎日新聞 2019/04/28



ものかげの雨

高倉 やえ 著
KADOKAWA

第1回林芙美子文学賞佳作の表題作「ものかげの雨」と、新作3篇を収録。4作品に通底する老いのテーマとともに、人間の悲喜こもごもと心の機微をときにユーモラスに、ときに官能的に、見事に描き切った傑作短篇集。

2019:3./ 184p

978-4-04-876504-6

本体 ¥1,600+税



毎日新聞 2019/04/28



食肉の帝王～同和と暴力で巨富を掴んだ男～(講談社+a 文庫)

溝口 敦 著
講談社

同和と暴力を背景に、途方もなく肥え太った男の半生を赤裸々に綴った衝撃作!!政・官・財・暴を手玉に取った「食肉業界のドン」が、狂牛病騒動に乗じてわれわれ国民の“血税”を貪り喰らう様を暴く!

2004:11./ 338p

978-4-06-256890-6

本体 ¥860+税



毎日新聞 2019/04/28



拗ね者たらん～本田靖春 人と作品～

後藤 正治 著
講談社

読売新聞社会部エース記者として名を馳せ、独立後は「不当逮捕」「誘拐」「警察回り」などの名作を生んだ孤高のジャーナリスト、本田靖春。その生涯を、作品群と関係者の証言を通して描く。『本』連載を単行本化。

2018:11./ 396p

978-4-06-514030-7

本体 ¥2,400+税



毎日新聞 2019/04/28



めぐりあいし人びと(集英社文庫)

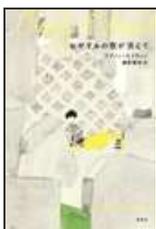
堀田 善衛 著
集英社

毎日新聞 2019/04/28

1999:9./ 231p

978-4-08-747102-1

本体 ¥438+税



おやすみの歌が消えて

リアノン・ネイヴイン、越前 敏弥 著
集英社

兄のアンディが「じゅうげき犯」に殺された。ママもパパも、すべてが変わってしまった世界で、ひとりぼっちになったザックは、アンディのクロゼットを秘密基地にし…。銃乱射事件を6歳の子供の視点から描いた長編小説。

2019:1./ 394p

978-4-08-773495-9

本体 ¥2,200+税



毎日新聞 2019/04/28



葉の王

谷崎 由依 著
新潮社

なぜ私は小説を書くのか、それをどう教えるのか。教師としての経験を元に、小説と格闘する人々を描いた表題作など全 4 編を収録した、女性と世界との葛藤を浮き彫りにする作品集。『新潮』掲載を単行本化。

毎日新聞 2019/04/28

2019.3./ 254p
978-4-10-352371-0
本体 ¥1,800+税



ドナルド・キーンのおペラへようこそ!~われらが人生の歓び~

ドナルド・キーン 著
文藝春秋

光源氏とドン・ジョヴァンニを比較したら? 好きな歌手は? 日本文学研究者で、熱狂的なオペラファンのドナルド・キーンによるオペラ解説の集大成。鑑賞したオペラ公演のリスト、近藤憲一の寄稿も収録。

毎日新聞 2019/04/28

2019.4./ 316p
978-4-16-391007-9
本体 ¥2,000+税



彼方の本~間村俊一の仕事~

間村 俊一、川上 朋子 著
筑摩書房

定規、糊、カッターナイフなどの道具だけを用いて端正な造本をつづける職人氣質の装幀家・間村俊一による創作論・作品集。装幀を手がけた約 300 点の書影をカラー写真で掲載。間奏句集「ボヴァリー夫人の庭」55 句を付す。

毎日新聞 2019/04/28

2018.11./ 191p
978-4-480-87397-2
本体 ¥4,700+税



ヴェネツィアの石

ジョン・ラスキン、井上 義夫 著
みすず書房

朽ちるがままの、あるいは修復の名のもとに破壊されていたヴェネツィアの建築遺産を目のあたりにしたラスキンの主著。興隆期ビザンティンから絶頂期ゴシック、衰退期ルネサンスまで精緻かつ雄大に綴られた「水の都」の建築史。

毎日新聞 2019/04/28

2019.3./ 452p
978-4-622-08718-2
本体 ¥6,000+税



新しい古代史へ<1> 地域に生きる人びと

平川 南 著
吉川弘文館

古代の人びとはそれぞれの地域でいかに生きたのか。甲斐国を舞台に様々な文字資料からその実像に迫る。1 は、国府、地方行政、氏族と渡来人の活動の実態など、古代の国家と地域の関係を考察する。『山梨日日新聞』連載を編集。

毎日新聞 2019/04/28

2019.5./ 7p,235p
978-4-642-06842-0
本体 ¥2,500+税



虹色球団~日拓ホームフライヤーズの10 カ月~

長谷川 晶一 著
柏書房

東映から日本ハムへの「懸け橋」として、球界に一瞬浮かんで消えた日拓ホームフライヤーズ。1973 年、パ・リーグ存亡の危機の中に誕生したチームの悪戦苦闘を、当時の世相を反映させながら描くスポーツ・ノンフィクション。

毎日新聞 2019/04/28

2019.3./ 255p
978-4-7601-5072-4
本体 ¥1,800+税





世界で一番美しい植物のマイクロ図鑑

コリン・ソルター、世波 貴子 著
エクスナレッジ

植物たちの世界を、超高性能の顕微鏡で覗いてみると、驚きの光景が！ 種子、花粉、樹木と葉、花、野菜、果実など、彩色処理を施した植物の美しいマイクロ写真を集成。顕微鏡のレンズを通して生命の不思議に迫るシリーズ第2弾。

2019:3./ 191p
978-4-7678-2535-9
本体 ¥2,400+税



毎日新聞 2019/04/28



福島のお母さん、いま、希望は見えますか？

棚澤 明子 著
彩流社

この閉塞した社会の中で、どこに希望を見出しながら子育てをしていけばよいのか？ 健康不安、分断、バッシング、痛み…。3.11 のあの時、福島で暮らしていたお母さんたちの声を紹介する。

2019:3./ 229p
978-4-7791-2561-4
本体 ¥1,800+税



毎日新聞 2019/04/28



現実のクリストファー・ロビン～瀬戸夏子ノート 2009-2017～

瀬戸 夏子 著
書肆子午線

真摯で豊饒な言葉は今日も世界と交差してゆく。エッセイ、評論からインタビュー、ブックガイド、日記、歌壇時評、小説まで、歌人・瀬戸夏子の多彩なテキストの数々を集積する。

2019:3./ 413p
978-4-908568-20-6
本体 ¥2,700+税



毎日新聞 2019/04/28